

平成30年度ウチナージュニアスタディー事業報告書

Uchina Junior Study 2018 Report



2018 Uchina Junior Study



1.概要	
(1)ウチナージュニアスタディー事業概要	3
(2)総括・成果	4
(3)組織運営図	5
(4)行程表	6
(5)参加者名簿	7
(6)グループ表	9
2.事業内容	
(1)事前学習	10
(2)お迎え	15
(3)学習プログラム	16
(4)エイサー講習	44
(5)アフタープログラム	45
(6)見送り	47
(7)おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018	49
(8)事業後の活動	50
3.参加者感想	
(1)県内参加者・県内青年リーダー	51
(2)海外参加者・海外青年リーダー	68
4.参考資料・その他	
(1)メディア関連	84
(2)YouTube	89
(3)インターネットを利用した次世代ネットワークの構築	90
(4)制作物	91
(5)改善点	94
(6)過去の受入実績	95

●事業目的

世界の沖縄県系人子弟と沖縄県内の同世代の学生が生活を共にしながら沖縄の歴史や文化、自然等を学ぶことで、強い絆を構築するとともに、県系人子弟についてはルーツである沖縄への理解を深め、県内学生については国際的な視野を広げることで世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。

●事業内容

(1) 事業実施

事前学習① 平成30年6月30日(土) 9:00~17:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

事前学習② 平成30年7月14日(土) 9:00~16:00 (県内参加者・県内青年リーダーのみ)

ツアー実施期間：平成30年7月29日(日)~8月4日(土)

報告会：平成30年8月4日(土) 事業最終日

アフターイベント：平成30年8月7日(火)

(2) 参加者 33名

■海外参加者 13~19歳までの海外県系人15名

■県内参加者 沖縄県内の中学・高校生16名

■青年リーダー 沖縄県内/海外県系人2名

①海外・国別内訳【9カ国】

アメリカ合衆国 6名・カナダ 1名・イギリス 1名・オーストラリア 1名・

ブラジル連邦共和国 2名・メキシコ合衆国 1名・ボリビア多民族国 1名・

ペルー共和国 2名・アルゼンチン共和国 1名

②海外・世代別内訳

海外参加者 2世=4名 3世=8名 4世=3名 5世=1名

(3) ツアー同行スタッフ

■沖縄県職員 2名・国際交流員 2名(アメリカ・ペルー 各1名) 計4名

■担当スタッフ 5名・通訳 3名(英語・スペイン語・ポルトガル語 各1名) 計7名

■その他 エイサー講師 1名・看護師 1名・ボランティア 26名

(4) 学習プログラム

①自然学習

沖縄の自然や動植物に触れるアクティビティーにより、自然の大切さを学ぶ。

②歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を訪れ、沖縄の歴史を学ぶ。

③文化学習

沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知り、体験する。

④平和学習

沖縄戦の概要を学び、平和について考える。

⑤社会学習

沖縄での生活を経験し、沖縄の「今」を考える。

⑥移民・移住学習

沖縄県の移民・移住の歴史や世界のウチナーンチュ大会、世界のウチナーンチュの日について学び、ウチナーンチュとしてのルーツを再確認するとともに、次世代のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

2018年度は、沖縄にて第1回沖縄空手国際大会が開かれ、国内外から多く空手家たちが訪れるなど、沖縄が注目される年となった。本事業、参加者はプログラム5日目の8月2日に迫力ある沖縄空手国際大会を見学することができ、良い経験となった。

那覇市ぶんかテンプス館で鑑賞した移民劇鑑賞では、普段教科書で学べない沖縄の歴史を劇をとおして学び、参加者から評価の高いプログラムとなった。

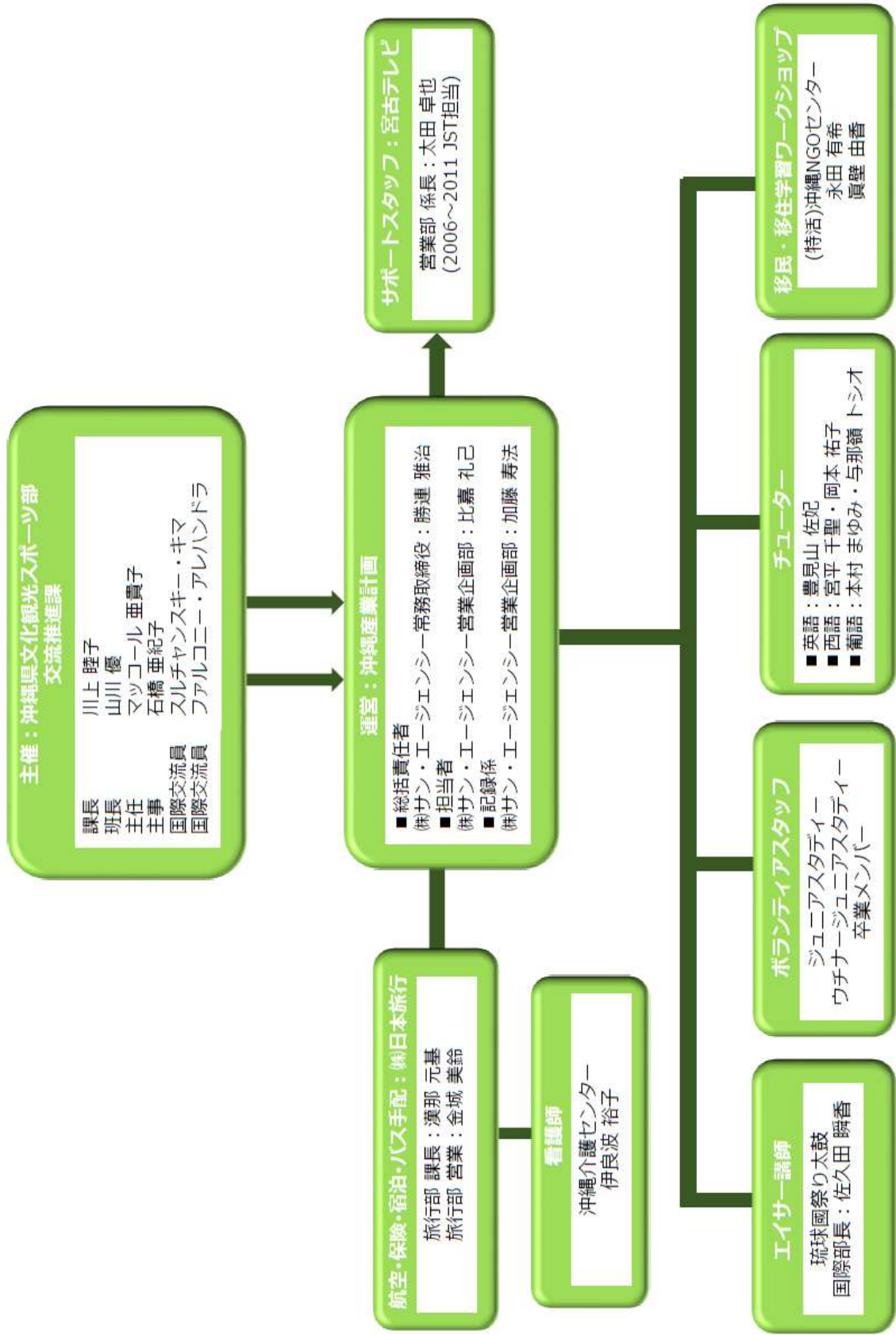
昨年に引き続き、ペルー出身の県系3世のアルベルト城間氏を講師として招き、彼の「沖縄」に対する想いを語っていただいた。音楽を交えての身近な体験に基づいた講演に参加者はとても感銘を受けていた。講演最後は参加者全員で感謝を込めて、「片手に三線を」を合唱した。

参加者は、本事業後もfacebookやLINEなどSNSを通して連絡を取り、引き続き活発に交流を続け、事後活動の報告や再会を誓い合っていることからウチナーネットワークの広がりや深い絆を築いていると実感できる。

本事業の特徴として、海外を含め多くの本事業OBOGがボランティアとして事業運営に携わっていることが挙げられる。事業終了時には参加者のウチナーネットワークへの関心が飛躍的に高まっており、今後もボランティアや青年リーダーとして本事業に関わることができることから、今後もウチナーネットワークへの関心を継続させることができる。本事業はウチナーネットワークを担う次世代育成に大きく寄与するものであり、事業効果は高いものとする。また、今年度は参加者向けに「ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業」や「海邦養秀ネットワーク構築事業」等の沖縄県が実施している他の国際交流事業の説明会を実施することにより、今後の国際交流事業への参加に意欲が高まったと考える。

以下、参加者のコメントを一部抜粋

- これからはこの貴重な体験を活かして、世界と沖縄を繋げるようになりたいし、みんなとの出会いを大切にしたい。言語が違って、1週間で家族のように仲良くなれて本当に嬉しかった。
(県内参加者)
- 皆と過ごす時間がこんなに早く過ぎていくとは思わなかった。でも短かったからこそ1日1日を大切にできたと思う。
(県内参加者)
- 海外に興味を持てたし、コミュニケーションの力を養えた。そして、たくさんの仲間を持てた。これからもずっと友達でいたい。
(県内参加者)
- このような素晴らしい機会を与えてもらい、すてきな皆と出会い沖縄について学ぶことができたことに感謝します。私のまだ知らなかった私の一部を発見できた一週間でした。
(海外参加者)
- この経験は一生心に残る宝物です。また会えることを楽しみにしています。
(海外参加者)
- 参加者全員が1週間かけて最後の日には団結することができて、家族のようになり、とても嬉しく思いました。
(海外参加者)



参加者名簿(県内参加者)

	氏名	年齢	性別	学校名	学年
1	田場 美響	14	女	沖縄県立与勝緑が丘中学校	2
	Mion Taba				
2	親泊 まり奈	14	女	宮古島市立平良中学校	3
	Marina Oyadamari				
3	与儀 希莉乃	14	女	那覇市立神原中学校	3
	Kirino Yogi				
4	上原 涼	17	女	沖縄県立那覇国際高等学校	3
	Suzu Uehara				
5	豊里 梨実花	17	女	沖縄県立首里高等学校	2
	Rimika Toyozato				
6	新城 未亜	16	女	沖縄尚学高等学校	2
	Mia Shinjo				
7	荒本 樹乃	17	女	沖縄県立前原高等学校	3
	Juno Aramoto				
8	與儀 光陽	15	男	学校法人興南学園 興南高等学校	1
	Koyo Yogi				
9	服部 進之介	17	男	沖縄県立向陽高等学校	3
	Shinnosuke Hattori				
10	川端 亮司	18	男	沖縄県立向陽高等学校	1
	Ryoji Kawabata				
11	具志堅 咲希	17	女	沖縄県立北中城高等学校	3
	Saki Gushiken				
12	安次嶺 心蘭	16	女	沖縄県立球陽高等学校	2
	Miran Ashimine				
13	平田 明日香	17	女	沖縄県立南風原高等学校	3
	Asuka Hirata				
14	上門 瑞希	16	女	沖縄県立与勝高等学校	2
	Mizuki Uejo				
15	元谷 和滯	16	女	沖縄県立コザ高等学校	2
	Nagomi Mototani				
16	比嘉 優	16	女	沖縄県立開邦高等学校	2
	Yu Higa				
17	大浜 秀吾	23	男		
	Shugo Ohama				

参加者名簿(海外参加者)

	氏名	年齢	性別	国名	世代
1	カニングハム 陽優 ウィリアム	15	男	アメリカ合衆国	2
	Hugh William Cunningham				
2	マックミリアン 夢彩	16	女	アメリカ合衆国	2
	Yuah Macmillan				
3	オスピナ アンジェラ ミチコ	14	女	アメリカ合衆国	4
	Angela Ospina				
4	小西 ローネン 明	17	男	アメリカ合衆国	5
	Ronan Akira Konishi				
5	シングルトン レイケン	16	女	アメリカ合衆国	3
	Laken Shingleton				
6	ワング エミリー	15	女	アメリカ合衆国	3
	Emily Wong				
7	太田 トーマス	16	男	カナダ	3
	Tomas Gonzalo Ota				
8	マクドウェル 丈	17	男	イギリス	2
	Joe McDowell				
9	川平 朝喜	15	男	オーストラリア	2
	Tomoki Ellis Kawahira				
10	安慶名 ノエミ	16	女	ブラジル連邦共和国	4
	Noemi Aguena				
11	城間 イザベラ	15	女	ブラジル連邦共和国	4
	Isabela Shiroma				
12	パステリン 古波蔵 エリカ イザベル	15	女	メキシコ合衆国	3
	Erika Isabel Pastelin Kohagura				
13	眞榮城 海人	19	男	ポリビア多民族国	3
	Kaito Maeshiro				
14	諸喜田 ミカエラ 美由紀	18	女	アルゼンチン共和国	3
	Michaela Miyuki Shokita				
15	崎原 上江洲 ジャンポール	15	男	ペルー共和国	3
	Jean Paul Sakihara Uezu				
16	石坂 伊禮門 ニコール 順	22	女	ペルー共和国	3
	Nicole Juun Ishisaka Yreijo				

グループ表

★グループリーダー

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	★荒本 樹乃(17)	★服部 進之介(17)	★川端 亮司(18)
	Juno Aramoto	Shinnosuke Hattori	Ryoji Kawabata
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
2	與儀 光陽(15)	豊里 梨花花(17)	新城 未亜(16)
	Koyo Yogi	Rimika Toyozato	Mia Shinjo
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
3	比嘉 優(16)	与儀 希莉乃(14)	田場 美響(14)
	Yu Higa	Kirino Yogi	Mion Taba
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA
4	オスピナ アンジェラ ミチコ(14)	マックミリアン 夢彩(16)	マクドウェル 丈(17)
	Angela Ospina	Yuah Macmillan	Joe McDowell
	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	イギリス
5	太田 トーマス(16)	ワング エミリー(15)	崎原 上江洲 ジャンポール(15)
	Tomas Gonzalo Ota	Emily Wong	Jean Paul Sakihara Uezu
	カナダ	アメリカ合衆国	ペルー共和国
6	城間 イザベラ(15)	諸喜田 ミカエラ 美由紀(18)	安慶名 ノエミ(16)
	Isabela Shiroma	Michaela Miyuki Shokita	Noemi Aguena
	ブラジル連邦共和国	アルゼンチン共和国	ブラジル連邦共和国
7		石坂 伊禮門 ニコール 順(22)	
		Nicole Juun Ishisaka Yreijo	
		ペルー共和国	
	Dグループ	Eグループ	
1	★具志堅 咲希(17)	★平田 明日香(17)	
	Saki Gushiken	Asuka Hirata	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
2	安次嶺 心蘭(16)	上原 涼(17)	
	Miran Ashimine	Suzu Uehara	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
3	元谷 和濤(16)	上門 瑞希(16)	
	Nagomi Mototani	Mizuki Uejo	
	沖縄-OKINAWA	沖縄-OKINAWA	
4	カニングハム 陽優 ウィリアム(15)	親泊 まり奈(14)	
	Hugh William Cunningham	Marina Oyadamari	
	アメリカ合衆国	沖縄-OKINAWA	
5	小西 ローネン 明(17)	川平 朝喜(15)	
	Ronan Akira Konishi	Tomoki Ellis Kawahira	
	アメリカ合衆国	オーストラリア	
6	パステリン 古波蔵 エリカ イザベル(16)	シングルトン レイケン(16)	
	Erika Isabel Pastelin Kohagura	Laken Shingleton	
	メキシコ合衆国	アメリカ合衆国	
7	大浜 秀吾(23)	眞榮城 海人(19)	
	Shugo Ohama	Kaito Maeshiro	
	沖縄-OKINAWA	ポリビア多民族国	

男女別内訳

	海外参加者	国内参加者
男	7	4 (青年リーダー1名含む)
女	9 (青年リーダー1名含む)	13
	16	17

言語別内訳

	英語	スペイン語	ポルトガル語
	9	5	2

■【事前学習①】 6月30日(土)

**実施内容：●オリエンテーション ●交流プログラム
●沖縄NGOセンターによる移民・移住学習**

09:00 集合・出席確認

第一部(県内参加者・県内参加者の保護者・海外参加者ホストファミリー)

09:10 オリエンテーション

第二部(県内参加者のみ)

<進行：ボランティアスタッフ(過去参加者)>

10:40 交流プログラム

12:00 昼食

<進行：沖縄NGOセンター>

13:00 移民・移住学習

14:30 宿題の説明「ファミリーストーリー」・「市町村紹介」・「余興内容」

15:00 「沖縄」紹介プレゼン準備

16:00 まとめ

17:00 事前学習終了

日時：6月30日(土) 9:00～17:00

場所：沖縄県市町村自治会館

オリエンテーション 9:00～10:30

●目的

県内参加者に加え、県内参加者の保護者・海外参加者ホストファミリーを招き、ウチナージュニアスタディーの趣旨や事業説明・注意事項の説明を行い、理解してもらう。

●実施内容

- ①主催者挨拶(沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課課長 川上睦子)
- ②事業概要説明
- ③スタッフ紹介
- ④ビデオ上映(世界のウチナーンチュの日制定記念祭ダイジェスト版)
- ⑤沖縄県のウチナーネットワーク施策の説明
- ⑥事業プログラム説明・参加者心得説明・注意事項説明
- ⑦保険の説明・フライトスケジュール説明
- ⑧質疑応答

●結果

県内参加者の保護者・ホストファミリーを招き、事業説明・注意事項の説明を行なうことで直接やりとりができ、不安を軽減することができた。また信頼感が生まれ、事業への協力をより得ることができた。

ボランティア進行による交流プログラム 10:40～12:00・14:30～17:00

●目的

県内参加者・ボランティア参加者が楽しいゲームを行い、仲を深める。

●実施内容

- ①アイスブレイク(ゲーム)
 - ・イス取りゲーム/新聞紙乗りゲーム/鬼探しゲーム
- ②宿題の説明
 - ・市町村紹介
 - ・ウェルカムパーティーの余興
 - ・ファミリーストーリー
- ③余興の内容作成

●結果

交流プログラムを行ったことで参加者の緊張もほぐれ距離が縮まった。

●参加者の感想

みんな今日、初めて会って、最初は不安や緊張の方が大きかったけど、ゲームやワークショップを通してたくさん話したり、グループで協力して1つのことを成し遂げて楽しかったし、これからがとても楽しみになりました。ボランティアの方がたくさん盛り上げてくれたおかげで、思ったよりもすくなじめて良かったです。(県内参加者)



沖縄N G Oセンターによるワークショップ 13:00~14:30

講師：沖縄N G Oセンター 眞壁由香・国仲梨月

●目的

沖縄N G Oセンターが講師となり、沖縄の移民についてワークショップを行い、現在までの海外のウチナンチュの動きを学習する。

●実施内容

- ①アイスブレイク
- ②フォトランゲージ グループディスカッション
- ③グループ発表
- ④移民の絵本ストーリー作成・読み聞かせ
- ⑤振り返り

●結果

グループでフォトランゲージの写真を読み取って話し合ったり、移民の絵本ストーリーを実際に作成することによって沖縄の移民のいろいろな気づきや発見ができた。

●参加者の感想

移民した沖縄人の人々が厳しい状況の中で働いていたことを悲しく思う反面、そんな状況でも故郷沖縄のことを想って労働する姿はたくましいと思いました。

また、グループで絵本の内容を考えた時は想像力をふくらまして楽しいストーリーを作ることができました。読み聞かせでは沖縄人と世界のウチナンチュの繋がりが知れてよかったです。(県内参加者)

今回のワークショップで世界中へ移民していたウチナンチュの人たちがどのような苦勞をして今の文化までたどり着いたのかを再確認できました。

ウチナンチュの“ゆいまーるの心”や沖縄を想う気持ちに感動しました。(県内参加者)



■【事前学習②】 7月14日(土)

**実施内容：●沖縄県によるワークショップ ●交流プログラム
●沖縄NGOセンターによる移民・移住学習**

09:00 集合・出席確認

第一部

<進行：沖縄県担当(マッコール・石橋)>

09:00 沖縄県担当によるワークショップ

<進行：ボランティアスタッフ(過去参加者)>

10:00 交流プログラム

11:20 ウェルカムパーティーの余興練習

12:00 昼食

第二部

<進行：沖縄NGOセンター>

13:00 移民・移住学習
・アイスブレイク
・事前学習①のふりかえり
・ファミリーストーリー発表
・ゲスト講師とゆんたく会「移民の話」
・ゲスト講師についての発表
・「ガンバッテヤンド」ミニドラマ

16:00 ウェルカムパーティーの余興練習

18:00 事前学習終了

日時：7月14日(土) 9:00~18:00

場所：沖縄県市町村自治会館

県職員によるワークショップ 9:00~10:00

●目的

参加者に事業への志望動機や目的を再認識させ、プログラム目標を立て、参加者同士で共有する。

●実施内容

- ①ワークショップ説明
- ②事業への志望動機・目的確認
- ③本プログラムの目標作成
- ④写真撮影



●結果

県内参加者は本事業への参加目的・目標を再認識し、本プログラムにむけて全員の意識を高めることができた。

ボランティア進行による交流プログラム 10:00~12:00

ウェルカムパーティーの余興練習 11:20~12:00・16:00~18:00

●目的

ジュニアスタディーツアー・ウチナージュニアスタディーで恒例のダンスの練習やゲームを覚えて、県内参加者がホスト役として海外参加者を迎えるための準備を行なう。

●実施内容

- ①アイスブレイク(ゲーム・ダンス)
 - ・人間知恵の輪/じゃんけん列車
 - ・マカレナ/5!6!7!8!/Ai Se Eu Te Pego
- ②ウェルカムパーティー余興練習

●結果

海外参加者を迎える準備ができた。ウェルカムパーティーの余興の準備も順調に進み、本番に向けて各自自主練を行い、調整をする。

沖縄NGOセンターによるワークショップ 13:00~16:00

講師：沖縄NGOセンター 永田有希・眞壁由香

ゲストスピーカー：普久原さおり・佐久田アンドレ・村田奈美恵

●目的

- ①沖縄NGOセンターが講師となり、事前学習①の振り返りを行なう。
- ②ゲストスピーカーを招き、移民の実体験を聞き、移民への理解を深める。
- ③移民小唄から移民・多文化共生について考える。

●実施内容

- ①アイスブレイク
- ②事前学習①のふりかえり
- ③ファミリーストーリー発表
- ④ゲスト講師とゆんたく会「移民の話」
- ⑤ゲスト講師についての発表
- ⑥「ガンバッテヤンド」ミニドラマ



●結果

ゲストスピーカーの移民の講話や自作移民劇をとおして、県内参加者1人1人が移民についての関心が高まった。

日時：7月25日(水)・26日(木)

場所：那覇空港



■【1日目】 7月29日(日)

実施内容：●オリエンテーション
●沖縄NGOセンターによる移民・移住学習
●交流プログラム ●ウェルカムパーティー

- 09:00 開校式～オリエンテーション(ホテルチュラ琉球 7 階会議室)
●スタッフ紹介
●参加者自己紹介
●事業概要説明
●プログラム説明
●心得・注意事項説明
●リーダー選出・グループ発表
- 10:30 休憩
- 10:50 自国紹介～第一部～
●カニングハム 陽優 ウィリアム
●太田 トーマス
●マックミリアン 夢彩
●マクドウェル 丈
●安慶名 ノエミ
●城間 イザベラ
●オスピナ アンジェラ ミチコ
●川平 朝喜
●パステリン 古波蔵 エリカ イザベル
- 12:00 昼食(ホテルチュラ琉球 1 階レストラン)
- <進行：沖縄NGOセンター>
- 13:00 沖縄NGOセンターによる移民・移住学習①(ホテルチュラ琉球 7 階会議室)
●アイスブレイク
●アイデンティティ・グラデーション
●サオリの学び
●振り返り
- <進行：U J S 卒業生ボランティア>
- 17:00 交流プログラム(ホテルチュラ琉球 8 階宴会場)
●じゃんけん列車(Y M C A)
●人間知恵の輪
●新聞紙乗りゲーム
●ダンス：マカレナ・ 5!6!7!8!・ Ai Se Eu Te Pego
- 18:35 ウェルカムパーティー(ホテルチュラ琉球 7 階会議室)
- 20:00 ウェルカムパーティー終了
- 20:30 学習プログラム 1 日目終了

オリエンテーション 9:00~12:00

●目的

県内参加者・海外参加者が初めて顔を合わせる。一週間安全で楽しく学びの多いツアーにするため、本事業の趣旨やプログラムの内容を説明し、理解してもらう。

海外参加者が自国紹介を行い、参加者全員で他国の文化や習慣、県人会での活動を学ぶ。

●実施内容

- ①スタッフ紹介
- ②参加者自己紹介
- ③事業概要説明
- ④プログラム説明
- ⑤心得・注意事項説明
- ⑥リーダー選出・グループ発表
- ⑦自国紹介～第1部～

●結果

海外参加者と県内参加者が初めて対面し、全体的に緊張した様子だったが、海外参加者の自国紹介が始まると他国の文化や習慣に興味を持ち、詳しく知りたいという参加者の姿勢が見られた。

●参加者の感想

アメリカやブラジル、カナダなどたくさんの国の有名な場所やそれぞれの県人会での活動が知れてよかった。(県内参加者)

オリエンテーションは少し不安だったけど、事業内容や参加者の国、違う文化や沖縄との繋がりを知ることができた。(海外参加者)



沖縄NGOセンターによる移民・移住学習 13:00~16:30

●目的

自分のアイデンティティーについて考え、他の参加者との違いを体験し多様な人との関わり方を考える。

●実施内容

- ①アイスブレイク「サイレント仲間探し」
- ②アイデンティティーグラデーション
- ③サオリの学び
- ④制作物の説明・テーマ決め
- ⑤ふりかえり

●結果

参加者全員が自分のアイデンティティーについて考えることにより、自分の今の「ウチナーンチュ」や「沖縄」に対する気持ちが共有できた。



●参加者の感想

自分の今の立場を考えて海外に興味を持って知っている分もっと差別とかをなくせるように海外の良さを伝えていきたいと思いました。(県内参加者)

私は自分のアイデンティティーに誇りを感じました、他の参加者達のいろいろな話を聞いて私達は同じ状況を過ごしていて、似ていることに気づきました。(海外参加者)



交流プログラム 17:00~18:30

●目的

ボランティアが進行役となり、参加者はグループに分かれゲームやダンスを行ないコミュニケーションの向上を目指す。

●実施内容

- ①じゃんけん列車(YMCA)
- ②人間知恵の輪
- ③新聞紙乗りゲーム
- ④ダンス：マカレナ/5!6!7!8!/Ai Se Eu Te Pego

●結果

簡単な単語を使いながらコミュニケーションを取り、グループ対抗のゲームを楽しんでいた。ゲームやダンスで緊張がほぐれてチームワークが深めた。



●参加者の感想

交流プログラムのゲームを通して、一気にみんな仲良くなったような気がします。言葉のいらないダンスでは全員で踊るととても楽しかったです。グループ対抗のゲームでは、みんなで案を出し合ってゲームをすることができたし、仲がさらに深まったので良かったです。(県内参加者)

ウェルカムパーティー 18:35~20:00

●目的

海外・県内参加者同士が言葉や文化の違いにふれ、本事業を有意義なものにするために行う。
県内参加者がホスト役となり余興を行い、海外参加者を歓迎する。

●実施内容

- ①歓迎挨拶
- ②乾杯の音頭
- ③県内参加者による余興
- ④カチャーシー
- ⑤県内参加者から海外参加者へのプレゼント

●結果

沖縄伝統の余興や全員参加型の余興を取り入れた。
県内参加者からのプレゼントもあり、
海外参加者も喜んでいる様子だったので、
素晴らしいウェルカムパーティーとなった。

●参加者の感想

自分たちで計画した余興が成功するのか喜ばれるのかが
気になっていたけれど、真剣に見てくれたし、
盛り上がってくれたので、幸せな気分だった。
ハンコとちんすこうのプレゼントもすごくうれしそうだったので思わず笑顔がこぼれました。
(県内参加者)

ウェルカムパーティーは本当に歓迎された気分でした。食事はおいしかったし、沖縄の参加者が見せてくれた自信のある、熱心な気持ちのパフォーマンスはすごく気に入りました。今日はたくさんの友達もできたし、いい経験のできたいい日でした。
(海外参加者)



ウェルカムパーティー式次第

日時：平成30年7月29日(日) 18：30～20：00

場所：ホテルチュラ琉球

司会：U J S 卒業生(ボランティア)

大城 里緒(17期生)

與那嶺 元就(17期生)

18:35	開会	司会
18:35	歓迎の挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部 統括監：山城 貴子
18:40	乾杯の音頭	沖縄パンアメリカン連合会 会長：大山 盛稔 (おおやま せいしん)
18:45	食事・懇談	
19:05	余興	司会
19:08	あまわり	荒本 樹乃・元谷 和滯・上門 瑞希・田場 美響
19:15	空手	新城 未亜・安次嶺 心蘭・具志堅 咲希
19:22	安里屋ユンタ	平田 明日香・上原 涼
19:27	トランペット	比嘉 優
19:33	歌：片手に三線を	県内参加者全員
19:40	ダンス：508号線	県内参加者全員
19:50	カチャーシー	参加者全員
20:00	終了	全員

■【2日目】 7月30日(月)

**実施内容：●表敬訪問 ●万国津梁館 ●美ら海水族館見学
●ビーチアクティビティ**

- 07:00 朝食
- 08:20 ホテル出発(徒歩で県庁へ)
- 08:45 県庁表敬訪問
 - 歓迎セレモニー
 - 記念撮影
- 09:30 県庁出発
- 11:00 万国津梁館到着・見学
- 11:30 万国津梁館出発・バス内で昼食(弁当)
- 12:15 海洋博公園到着
- 12:30 海の講習～美ら海水族館バックヤード見学～
- 13:10 美ら海水族館見学
- 14:30 イルカショー見学
- 15:30 ビーチアクティビティ(エメラルドビーチ)
- 17:00 海洋博公園出発
- 18:00 つつじエコパーク到着
- 18:30 夕食(つつじエコパーク内レストラン)
- 20:00 自国紹介～第二部～
 - 小西 ローネン 明
 - 眞榮城 海人
 - 崎原 上江洲 ジャンポール
 - 石坂 伊禮門 ニコール 順
 - シングルトン レイケン
 - 諸喜田 ミカエラ 美由紀

歓迎セレモニー 8:45~9:30

場所：沖縄県庁 1 階県民ホール

●目的

沖縄県の行政の中核である県庁を表敬し、参加者一人一人に各国の代表だという意識を持たせる。例年、各マスコミから取材があり、県民に広く本事業開催を周知及びPRをする。

●実施内容

- ①参加者紹介
- ②歓迎の挨拶
- ③参加者代表挨拶
- ④全体写真撮影

●結果

参加者は各国の代表という気持ちで県庁表敬。県内参加者代表と海外参加者代表が1週間のプログラムで国際交流を深め・ルーツである沖縄の文化や歴史、伝統などを学ぶと力強い意気込みを述べた。

●参加者の感想

歓迎セレモニーは県庁で行われ、自分たちが県内の代表なんだと自覚し直すことができ、これからの研修でもしっかりとやっていこうと実が引き締まる思いになりました。
(県内参加者)

嘉手苺部長とお会いできたり、テレビ中継されたり興奮する内容だった。オーストラリア代表として参加できたことを誇りに思いました。(海外参加者)



万国津梁館 11:00~11:30

●目的

2000年7月に「九州・沖縄サミット」の首脳会合会場として使用された万国津梁館サミットホールを見学し、当時のサミットについて学ぶ。

●実施内容

- ①万国津梁館訪問
- ②写真撮影

●結果

他展示会が開催されており、本来のサミットホールの見学ができなかった。

●参加者の感想

2000年のサミットが行われた場所。とても素敵なオーストラリアです。ここがなぜ沖縄の人にとって誇らしい場所・建物なのか良くわかりました。
(海外参加者)



海の講習・美ら海水族館見学・イルカショー見学 12:15～15:00

●目的

美ら海水族館のバックヤードにて海の講習を受講し、生物の飼育や飼育員の活動を学ぶ。特別講習後、美ら海水族館を見学し、海の生物に触れたり・沖縄の海という自然遺産の大切さを学ぶ。

●実施内容

- ①海の講習(美ら海財団職員による自然学校)
- ②美ら海水族館見学
- ③オキちゃんのイルカショー

●結果

水族館のバックヤードを見学し、参加者は海の生物の飼育方法や飼育員の仕事などを学んだ。水族館では様々な海の生物を観察して楽しんでいる様子だった。イルカショーのスプラッシュタイムでは参加者数名が冷たい水しぶきを受け、楽しんでいる様子も見れた。

●参加者の感想

水族館のバックヤードは本当におもしろかった。海の生き物生活がどのようになっているのか、各セクションで見て学べたのが楽しかった。(海外参加者)



ビーチアクティビティ 15:30～17:00

●目的

海洋博公園内にあるエメラルドビーチにて、沖縄の海を体験する。また、ビーチアクティビティを通して参加者のコミュニケーションを図る。

●結果

県内参加者と海外参加者が積極的にコミュニケーションを取り、写真撮影している様子がうかがえて、仲良くなっている様子だった。海に入る機会の少ない海外参加者も数人おり、沖縄の海の美しさを体験することができた。



●参加者の感想

ビーチでみんなでバレーをしたり、泳いだり楽しかった。さらに絆が深まった。(海外参加者)

歓迎セレモニー式次第

日時：平成30年7月30日(月) 8：45～9：30
場所：県民ホール(県庁1階)

司会：沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課
主任：マッコール 亜貴子

8:45	開会	司会
8:47	参加者紹介	司会
8:57	歓迎の挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部長 嘉手苺 孝夫
9:02	参加者代表挨拶	海外参加者代表 ボリビア多民族国 眞榮城 海人 県内参加者代表 向陽高等学校 服部 進之介
9:12	閉会	司会
9:15	～中庭へ移動～ 記念撮影	

■【3日目】 7月31日(火)

**実施内容：●川トレッキング ●BBQ ●交流プログラム
●キャンプファイヤー**

08:00 朝食

09:00 東の沢トレッキング

12:00 昼食(つつじエコパーク内レストラン)

フリータイム

15:00 自国紹介～第三部～

●ワング エミリー

●荒本 樹乃・服部 進之介・具志堅 咲希・平田 明日香(県内参加者)

16:00 エイサー講習

17:30 夕食 BBQ

<進行：U J S 卒業生ボランティア>

18:30 キャンプファイヤー

・グループ対抗ゲーム

(炭酸早飲み/飴玉探し/モノマネあてゲーム/絵の伝言ゲーム/腕相撲対決)

・友情の火を点火

・ダンス

(マカレナ/5!6!7!8!/Ai Se Eu Te Pego)

東の沢トレッキング 9:00~12:00

●目的

大自然の中を専門ガイドによる説明を受けながらリバートレッキングを体験し、沖縄の自然を学ぶ。また参加者同士で手を取り合って互いに助け合い、チームワーク・絆を深める。

●実施内容

やんばるの東村で大自然を感じ、リバートレッキングを行なう。

●結果

東村でしか見られない生物を観察したり、大自然を感じながら、リバートレッキングを体験することで、沖縄の自然の豊かさを学んだ。また、険しい道では参加者同士で声を掛け合い、手を取り合ってチームワークを深めた。



●参加者の感想

トレッキングは楽しかった。自然も新しくできた友達とこのような経験ができたことが嬉しかった。この経験が皆を一つにしてくれたと感じました。(海外参加者)

ボランティア進行による交流プログラム・キャンプファイヤー 18:30~21:00

●目的

進行はボランティアが行い、グループ対抗ゲームを行い、さらに交流を深める。ゲームで盛り上がった後に参加者全員で友情の火を囲み、一生の友情を誓い合い、参加者同士がさらに絆を深める。

●実施内容

①グループ対抗ゲーム

(炭酸早飲み・飴玉探し・モノマネあてゲーム・絵の伝言ゲーム・腕相撲対決)

②各グループリーダーが友情の火を点火

③友情の火を囲んでダンス

●結果

交流プログラムでは、グループ対抗ゲームで大いに盛り上がり、楽しんでいる様子だった。その後のキャンプファイヤーでは、国境の壁を乗り越え、絆がさらに一層深まり、一生の友情を誓い合った。

●参加者の感想

キャンプファイヤーでは、みんなで火を囲んで踊って楽しい時間を過ごせた。(海外参加者)



■【4日目】8月1日(水)

**実施内容：●平和祈念資料館見学 ●平和の礎見学
●ひめゆり平和祈念資料館見学
●平和構築ワークショップ ●首里城公園見学**

- 07:00 朝食
- 08:00 東村つつじエコパーク出発
- 10:00 平和祈念資料館到着・館内見学
- 11:00 平和の礎見学
- 11:45 昼食(優美堂)
- 12:30 ひめゆり平和祈念資料館到着・館内見学
- 13:00 平和構築ワークショップ
・「わたしの気持ち」シートを記入・発表
・「平和」をつくるための9つの方法シートを記入
・平和構築についてグループディスカッション
・グループ発表
- 15:00 ひめゆり平和祈念資料館出発
- 16:00 首里城公園到着・見学
- 17:00 首里城公園出発
- 17:30 ホテル到着
- 18:30 夕食(ホテルチュラ琉球1階レストラン)
- 19:30 エイサー講習(ホテルチュラ琉球8階宴会場)

平和祈念資料館 10:00～11:00

平和の礎 11:00～11:30

●目的

平和祈念資料館では沖縄戦の映像や展示資料を見ることで、平和や沖縄の歴史について学ぶ。平和の礎では事前に参加者から集めた刻銘調査書をもとに先祖の刻銘をグループメンバー全員で探し、先祖の刻銘を写し取る。

●実施内容

- ①沖縄戦の映像観賞・展示資料を見学。
- ②平和の礎見学。
- ③参加者の先祖の刻銘をグループで分かれ、探し刻銘を写し取る。

●結果

参加者は平和祈念資料館での写真や資料を真剣な表情で、眺めたり、熟読する姿がうかがえた。

参加者は沖縄戦について学び、「戦争は二度とさせてはいけない」という気持ちと、自分たちの先祖の過去について学び、平和への理解を深めることができた。

平和の礎では、先祖の刻銘を見つけると紙に写し取り、写真を撮る参加者の姿が見られた。

●参加者の感想

死体の写真を見たとき、すごく悲しくなりました。でも戦争では、死体の中を歩いていてどんな気持ちだったのかと思いました。またおじいちゃんの父と妹の名前を紙に写すことができたので嬉しかったです。(県内参加者)

沖縄の視点で第二次世界大戦について学ぶ重要性と沖縄の人が経験した悲惨さが分かった。できる限り多くの情報を学習し、それを忘れないように努力したい。(海外参加者)



ひめゆり平和祈念資料館 12:30~13:00

講師：古賀徳子

●目的

平和祈念資料館で学んだ沖縄戦とは違う視点で「ひめゆり学徒隊」を中心に戦争体験を知り、沖縄戦の悲惨さや平和の尊さを学ぶ。

●実施内容

- ①ひめゆりに関する戦争の展示室を見学。
- ②当時ひめゆり学徒隊に所属していた島袋淑子氏の体験談を聞き、戦争の悲惨さを再認識する。
- ③DVDのアニメ「ひめゆり」を観賞。

●結果

展示資料では、ひめゆり学徒隊の戦時中の体験資料を見学し、元学徒隊の島袋淑子氏の体験談を聞き戦争の悲惨さを再認識した。



●参加者の感想

悲惨な状況で運ばれてきた負傷者を治療するのがすごく辛かったと思います。また、実際に体験した生存者の話を聞くことができました。「命はとても大切」という言葉が心に刻まれました。すごく辛い思いをして今、こうして私たちに伝えてくれているので、今度は私たちが次世代の人に伝えようと思います。(県内参加者)

平和構築ワークショップ 13:00~15:00

●目的

展示室見学後、平和構築ワークショップを通して、平和構築のために何が大切なのか必要なものか、今自分たちに何ができるのかをグループで意見を出し合い、今後の平和構築に向けて発表する。

●実施内容

- ①「わたしの気持ち」シートを記入・発表
- ②「平和」をつくるための9つの方法シートを記入
- ③グループ内で平和構築についてディスカッション
- ④グループで意見をまとめ、全体発表

●結果

グループディスカッションでは、それぞれ違う国から見た視点で意見交換を行った。参加者全員で平和構築するための意見共有できた。



●参加者の感想

海外参加者との意見交換でき、「私の国ではこうだから...」と色々な考えを共有できたので新しい見方もうまれたし、共通点も見つけることができ嬉しかった。(県内参加者)

感情的にならずにはいられないと言える程、涙が流れる瞬間だった。自身の経験を語ってくれた生存者のお話しは、今まで聞いたことのない最も感動的なものだった、またアニメは物語をよく表現していた。ワークショップでは戦争と平和をコンセプトに、みんなの心からの気持ちを語り合うことができた。(海外参加者)

首里城公園 16:00~17:00

●目的

首里城見学を通して、「琉球王国」時代の食生活・貿易・文化などの歴史背景を学び、現在の沖縄に至る経緯を学ぶ。

●実施内容

- ①守礼門・首里城前で集合写真撮影
- ②首里城内見学

●結果

2グループに分かれ、各グループに専門ガイドが1名と通訳が付き、首里城内を見学。首里城の建物構造やアジア国との交易など当時の琉球王国の異文化交流について学んだ。

●参加者の感想

琉球王国の時代では、中国の影響を受けていたので、首里城があのような形になったと知りました。再現された建物の中が見れて、全て木で作られていると知り感動しました。もし、戦争がなければ本当の首里城の姿が見れていたのかなと思うと少し悲しくなりました。
(県内参加者)

首里城内の散策はとても良かった。またガイドさんの事実に基づく話や歴史が興味深かった。
(海外参加者)



■【5日目】 8月2日(木)

**実施内容：●沖縄県立博物館見学 ●沖縄空手会館見学
●伝統工芸品体験 ●マチグワァー散策 ●移民演劇鑑賞**

- 07:30 朝食(ホテルチュラ琉球 1 階レストラン)
- 08:40 ホテル出発
- 09:00 沖縄県立博物館到着・館内見学
- 10:00 沖縄県立博物館出発
- 10:30 沖縄空手会館到着・館内見学
- 12:00 沖縄空手会館出発
- 12:30 昼食(バンボッシュ)
- 13:45 那覇市伝統工芸館到着・工芸体験
 - ・首里織
 - ・琉球漆器
 - ・紅型
- 15:15 マチグワァー散策
- 17:00 移民演劇鑑賞(那覇市ぶんかテンプス館)
- 18:30 ホテル到着
- 18:45 夕食(ホテルチュラ琉球 1 階レストラン)
- 19:45 エイサー講習(ホテルチュラ琉球 8 階宴会場)

沖縄県立博物館 9:00~10:00

●目的

常設施設では、原始時代から琉球王国までの歴史、現在の沖縄と今までの歴史・文化、琉球王国時代の伝統工芸などの解説を聞き、縄文人からウチナーンチュへの文化・歴史について学ぶ。

●実施内容

- ①世界に広がる琉球空手の歴史
- ②琉球王国時代のウチナーンチュの生活
- ③参加者各自で常設展を見学
- ④万国津梁の鐘について

●結果

昔使用されていた食器や工芸品・琉服などの展示品を実際に鑑賞し、原始時代・琉球王国・沖縄の長い歴史や文化を学んだ。

●参加者の感想

私の知らない沖縄の歴史をたくさん学ぶことができました。万国津梁の鐘があることを初めて知りました。昔、首里城にあって、沖縄戦も体験している鐘だと知りました。沖縄の歴史がたくさん詰まったものを他にも見る事ができたので良かったです。(県内参加者)

琉球・沖縄の歴史や古来の生物、風景、当時の様子などが学べて楽しかった。万国津梁の鐘や墓の意味についても学べて良かった。(海外参加者)



沖縄空手会館 10:30~12:00

●目的

空手会館の資料室で空手の歴史を学び、「第1回沖縄空手国際大会」で実際に空手演武を観戦。

●実施内容

- ①資料室にて空手の歴史映像を観賞
- ②空手の鍛錬に使う道具を体験
- ③空手の歴史の展示資料を鑑賞
- ④沖縄空手国際大会の予選試合を観戦

●結果

資料室では映像観賞や展示物の見学・鍛錬体験を行い、空手の歴史を学んだ。沖縄空手国際大会では時間の都合により1試合観戦。

●参加者の感想

沖縄空手の歴史を展示物や映像を通して学び、体験コーナーでは、実際に体を使って楽しく空手について学ぶことができました。また、沖縄空手国際大会の海外予選を見学して初めて見たので迫力がすごいなと思った。「勝つのではなく、負けないこと」という教えがとても心に残り、空手は沖縄の大切な文化だと感じた。(県内参加者)

空手会館の展示やビデオから学んだことを試合を見ながら思い出すことができました。体験型の展示は楽しかった。(海外参加者)



那覇市伝統工芸館・工芸体験 13:45~15:15

●目的

琉球王国時代からの伝統工芸品である首里織・琉球漆器・紅型などの伝統工芸を体験する。自分で作り上げた工芸作品はお土産として持ち帰る。

●実施内容

首里織・琉球漆器・紅型の工芸体験をする。

●結果

琉球王国時代から受け継がれている伝統工芸品を実際に自分の手で作成し、工芸の楽しさ・歴史を学んだ。



●参加者の感想

私は琉球漆器を作り、初めてだったけど、先生に「上手！」と褒められて嬉しかった。こうやって手作業で工芸品を作っているからすごいと思ったし、残していくべき伝統の一つだなとも思いました。(県内参加者)

沖縄の伝統文化の紅型のコースターを作れたことは素晴らしかった。色味とかクリエイティブにできたので、このお土産をもらう人はとても気に入ってくれると思う。(海外参加者)

マチグワァー散策 15:15~17:00

●目的

ボランティアがガイドとなり、公設市場や壺屋やちむん通り等を散策しながら、昔ながらの沖縄の食や生活文化に触れる。

●実施内容

各グループに2名のボランティアがガイドとして加わり、2つのコースに分かれ平和通り・公設市場を散策する。散策の途中でボランティアが作成したミッションを達成しながら散策する。

●結果

実施時に大雨となったが、アーケード内で散策やミッションを行い、参加者は昔ながらの沖縄の食や生活文化を学んだ。



●参加者の感想

いつもよくとおる平和通りや公設市場の名前の由来や立ち並ぶ店について初めて知ることが多く、とても驚いた。平和通りにはたくさんの日用品やお土産、食品などが売っていて驚いた。公設市場に売っているカニやエビがほとんど生きている状態だったのも新鮮でいいなと思った。(県内参加者)

市場を歩き回って、沖縄の伝統的な食べ物や服装、習慣などを学んだ。興味深い経験だった。(海外参加者)

移民演劇鑑賞 17:00～18:30

●目的

琉球時代の歴史から現在の沖縄など、普段学校では学べないことを劇をとおして学ぶ。

●実施内容

- ①琉球王統神話～琉球おもろ神座世～
- ②琉球王国～島々清しゃ～
- ③移民の時代～海外ウチナンチュの苦闘～
- ④アメリカウチナー兵 比嘉武二郎～命繋ぎ～
- ⑤小那覇舞天～生きるための笑い～
- ⑥方言札～我ったーや誰やが？～

●結果

劇の構成は、しまくとぅばのみで進行され、英語の字幕が別画面で表示されていたため、参加者全員が真剣に鑑賞していた。

●参加者の感想

歌が多くてわかりやすかったし、楽しく移民について学ぶことができた。1番印象に残ったのは、「方言が汚い」や「学校で禁止されている」というセリフで、今となっては考えられないことだけど、実際間違っていたことだから、これからの時代でちゃんと残そうと思った。(県内参加者)

劇はとても興味深かったです。ウチナーグチをたくさん聞くことができました。そして、歴史についても知ることができました。方言が失われる事は沖縄文化にとって大きな損失だと思いました。(海外参加者)



永輝芸術会演 **百花繚乱**
Bravo Performance



創作郷土劇

8/2(木) 時 午後5時開演
時 午後7時開演

出演：沖縄ハンズオンユース倶楽部

琉球の歴史に埋もれたままの人物の、功績や軌跡を振り起こした物語。いくつかの短編を組み合わせ上演いたします。学校の歴史では習えない、大切なうちなー親先祖の心に触れることのできる舞台です。

英語・日本語の字幕つき！

■【6日目】8月3日(金)

実施内容：

- 実施プログラムまとめ
- 次世代ウチナーネットワーク育成事業説明
- アルベルト城間氏特別講演
- 沖縄NGOセンターによる移民・移住学習

- 07:30 朝食(ホテルチュラ琉球1階レストラン)
- 09:00 実施プログラム学習まとめ
- 10:30 次世代ウチナーネットワーク育成事業説明
・ウチナージュニアスタディー事業
・ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業
・市町村海外研修生
・海邦養秀ネットワーク構築事業
- 11:00 アルベルト城間氏特別講演
- 12:00 昼食(ホテルチュラ琉球1階レストラン)
- 13:00 沖縄NGOセンターによる移民・移住学習②(ホテルチュラ琉球7階会議室)
- 16:00 実施プログラムまとめ発表
- 17:30 1分間スピーチ作成
- 18:30 夕食(ホテルチュラ琉球1階レストラン)
- 19:30 エイサー講習(ホテルチュラ琉球8階宴会場)

実施プログラム学習まとめ 9:00~10:30

●目的

7月29日から8月2日までの学習プログラムを振り返り、何を学んできたかを各グループで話し合い、模造紙にまとめる。

●実施内容

「移民とアイデンティティー」・「平和」・「沖縄文化」・「沖縄の観光地」・「沖縄の自然」の5つのテーマを各グループに振り分け、思い出やプログラムを通して学んだことをまとめる。

●結果

絵だけで表現するグループや日本語や英語など各国の言葉だけで作成しているグループなど、各グループ様々な形でまとめていた。参加者各々の意見や感想などをまとめた発表では、参加者全員が沖縄への理解を深め、グループとしてのまとまり感もでており、成長をみる事ができた。



次世代ウチナーネットワーク育成事業説明 10:30~11:00

●目的

沖縄県交流推進課で実施している次世代ウチナーネットワーク育成事業を参加者に紹介することで、他事業にも興味をもってもらい、今後の応募・参加につなげる。

●実施内容

- ①ウチナージュニアスタディー事業
- ②ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業
- ③市町村海外研修生
- ④海邦養秀ネットワーク構築事業

●結果

参加者全員対象の事業のため、今回のウチナージュニアスタディーを通して、さらに国際交流に興味を持った参加者もいた。海外参加者の中には県費留学生事業に参加したいという声もあった。



アルベルト城間氏特別講演 11:00~12:00

講師：アルベルト城間(ディアマンテス)

●目的

ペルー出身県系 3 世のアルベルト城間氏を特別講師として招き、ペルーから沖縄に戻ってきた話など、彼のヒストリーを語っていただき、参加者に理解してもらう。

●実施内容

アルベルト城間氏の生まれたペルーの話や沖縄に来てからの苦労ばなし・現在にいたるまでの過去の話を講演。

講演中に彼が作詞・作曲した演奏も行った。

講演終了後、参加者全員で練習した

「片手に三線を」を合唱。



●結果

彼のヒストリーを聞いて、参加者は沖縄にルーツがあることを誇りに持つことができたのではないだろうか。

●参加者の感想

移民した方の視点でお話が聞けて興味深かったし、特に彼の歌は楽しかった。沖縄の移民した方の人生をととても深い視点で見せてくれた。(海外参加者)

沖縄NGOセンターによる移民・移住学習② 13:00~16:00

講師：沖縄NGOセンター 永田有希・眞壁由香

●目的

本事業プログラムで学んだことを各自まとめ、プログラム終了後は自分自身がどう行動するのかを考え、参加者全員で共有する。

●実施内容

- ①これまでの事業プログラムで学んだことをまとめ、グループ内で共有する。
- ②事業プログラムを通して学んだことを今後どう活かすか各自行動宣言を書く。
- ③行動宣言を参加者全員に共有する。

●結果

事業プログラムに参加して国際交流に興味を持った参加者もあり、また海外参加者の中には沖縄が好きになったので、日本語を勉強して住んでみたいという声もあった。

●参加者の感想

アイデンティティグラデーションで立ち位置を変えたのか理由が聞けて楽しかった。また、行動宣言をしたことで、みんな目標に向かって進むことができるし、お互いでサポートし合えるのは良いことだと思った。(海外参加者)



実施プログラムまとめ発表 16:00~17:30

●目的

午前中にテーマに沿って各グループで作成した制作物を参加者全員の前で発表し共有する。

●実施内容

Aグループ：沖縄文化

Bグループ：沖縄の観光地

Cグループ：移民とアイデンティティー

Dグループ：平和

Eグループ：沖縄の自然

●結果

グループで意見や思い出を紙1枚にまとめて全員で発表を行なった。

参加者全員が沖縄について熱心に学習してきたことを実感できた。

●参加者の感想

一度に全部のテーマではなく、1つのテーマに集中して学べて楽しかったです。

また、みんなのクリエイティブな発表が聞けたり、フィードバックをしたりしたのも良かった。上手にできたかは分からないけど日本語で発表したことは少し自信となった。

(海外参加者)



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



まとめ発表終了後の休憩時間

■【7日目】 8月4日(土)

**実施内容：●リハーサル ●修了式 ●報告会
●さよならパーティー ●エイサー演舞**

- 07:00 朝食(ホテルチュラ琉球 1階レストラン)
- 08:45 ホテル出発
- 09:00 八汐荘到着・修了式準備
- 09:30 リハーサル
- 11:30 昼食(弁当)
- 12:00 来賓・一般参加者受付開始
- 12:30 報告会及び修了式
・1分間スピーチ(海外参加者→県内参加者)
・主催者挨拶
・修了証授与(海外参加者→県内参加者→青年リーダー)
- 14:00 修了式終了・会場転換
- 14:30 さよならパーティー
・乾杯の音頭
・食事、懇談/思い出のスライドショー
・海外参加者による余興
・エイサー演舞
・カチャーシー
・卒業生からの送る言葉
- 17:30 さよならパーティー終了・パレットくもじ前広場移動
- 18:00 エイサー演舞
- 18:20 実施プログラム終了・ホテル移動
- 18:30 ホテル到着・荷物引取り
- 18:35 確認事項
・作文説明
・アフタープログラムの日時
- 18:50 解散

報告会・修了式 12:30~14:00

●目的

参加者の保護者・ホストファミリーや事業関係者を招待し、1週間の事業プログラムを通して、思い出や国際交流・沖縄の文化について発表。これから自分がどういう行動をするのか各自1分間でスピーチを行なう。

参加者全員に事業プログラムの修了証授与。

●実施内容

- ①海外参加者による1分間スピーチ
- ②県内参加者による1分間スピーチ
- ③海外参加者に認証状授与
- ④県内参加者に修了証授与
- ⑤青年リーダーに感謝状授与

表彰者：沖縄県文化スポーツ統括監 山城貴子



●結果

事業プログラムの思い出を振り返りながらスピーチを行う参加者の中には涙を流す者もあり、他の参加者も釣られて、みんなで涙を流し、思い出を共有する場面があった。

将来、語学の勉強をして参加者に会いに行くという宣言した参加者が多かった。

賞状を受け取った参加者は笑顔が見受けられ、初日に比べると全員成長している顔つきになったと感じた。

●参加者の感想

今までで一番感情的になりました。僕たちの涙はこの一週間で築いた友情とこのツアーへの愛と感情をよく表していると思います。スピーチは一週間の最高の締めでした。

(海外参加者)

さよならパーティー 14:30~17:30

●目的

海外参加者が余興で各国の伝統芸能や特技を披露する。

●実施内容

- ①乾杯の音頭
- ②食事・歓談
- ③思い出のスライドショー
- ④海外参加者による余興
- ⑤エイサー
- ⑥カチャーシー・集合写真撮影
- ⑦卒業生から送る言葉



●結果

海外参加者が各国の伝統芸能や特技を披露し、県内参加者は異文化の余興パフォーマンスを楽しんで見ていた。

参加型の余興もあり、会場はとても楽しい時間となった。

●参加者の感想

さよならパーティーはとても楽しい経験になりました。みんなのパフォーマンスを見るのは面白く、最後のダンスはとても楽しかったです。(海外参加者)

エイサー演舞 18:00~18:30

場所：パレットくもじ前広場

●目的

パレットくもじ前広場にて参加者が事業プログラム中に練習したエイサーを一般県民の前で披露する。

また会場内の皆さんに事業プログラムを説明し、沖縄県が取り組んでいる事業を紹介。

●実施内容

- ①ウチナージュニアスタータディー事業について説明
司会：ヒューイット・ショーン・瑛(2016年参加者)
- ②エイサー演舞
- ③参加者からエイサー講師への感謝の言葉
- ④参加者への花道
- ⑤集合写真撮影

●結果

参加者は多くの県民の前で1週間練習したエイサーを自信をもって力強く演舞した。演舞終了後、参加者の代表がエイサー講師に感謝の言葉をスピーチし、参加者全員で5か国語で「ありがとう」を伝えた。演舞を終えて花道を通った後、参加者同士涙を流し強く抱擁を交わしている姿が感動的だった。

●参加者の感想

この沖縄で琉球國祭り太鼓を学べるのは間違いなく他にはない経験でした。そして練習した成果を公に発表することが出来ました。私たちにとって素晴らしい経験だと思いました。(海外参加者)



修了式会場からパレット前の移動中



演舞前の待機



演舞①



演舞②

修了式次第

日時：平成30年 8 月 4 日(土) 12：30～14：30
場所：八汐荘 屋良ホール

司会：沖縄県交流推進課 マッコール亜貴子

第一部	報告会	
12:30	開会	司会
12:32	参加者による1分間スピーチ	参加者全員
第二部	報告会	
13:30	主催者挨拶	沖縄県文化観光スポーツ部 文化スポーツ統括監 山城貴子
13:35	認証状授与(海外参加者) 修了証授与(県内参加者) 感謝状授与(青年リーダー)	プレゼンター 沖縄県文化観光スポーツ部 文化スポーツ統括監 山城貴子 助手2名：JST/UJS卒業生
14:30	閉会	司会

さよならパーティー式次第

日時：平成30年8月4日(土) 15:00～16:45
場所：八汐荘 屋良ホール

司会：U J S 卒業生(ボランティア)
中村 優太(16期生)
生盛 翔大(17期生)

15:00	開会	司会
15:02	乾杯の音頭	沖縄アルゼンチン友好協会 会長 與座 宏章(よざ ひろあき)
	食事・懇談	思い出のスライドショー
15:15	余興	海外参加者
16:25	エイサー	参加者全員
16:40	カチャーシー・集合写真撮影	参加者全員
16:45	卒業生から送る言葉	ボランティア
16:50	閉会	

エイサー講習

講師：佐久田瞬香(琉球國祭り太鼓 国際部長)

日時・場所

7月31日 16:00~17:30 つつじエコパーク管理棟広場
8月1日 19:30~21:00 ホテルチュラ琉球8階宴会場
8月2日 19:30~21:00 ホテルチュラ琉球8階宴会場
8月3日 19:30~21:00 ホテルチュラ琉球8階宴会場
8月4日 16:35~16:50 八汐荘1階屋良ホール
18:00~18:30 パレットくもじ前広場

●目的

最終日のさよならパーティーで県内参加者の保護者・ホストファミリー・関係者の前で演舞を披露する。

さよならパーティー終了後はパレットくもじ前広場で一般県民の前で演舞を披露する。

●実施内容

エイサー講師は琉球國祭り太鼓所属の佐久田瞬香氏の指導のもと、参加者は事業プログラム中にエイサー練習を行い「ミルクムナリ」と「六調節」の2曲覚える。

さよならパーティー・パレットくもじ前広場でエイサー演舞を披露。

●結果

エイサー未経験の参加者が多かったが、講師の指導を真剣に聞き、練習に取り組む姿勢が見受けられた。

また琉球國祭り太鼓の国際支部に入っている参加者が他の参加者に教える姿も見受けられ、とても良い雰囲気で行なわれた。

エイサー講師の日本語と英語での2か国語指導・参加者同士のコミュニケーションがあったので短い時間の中で2曲の演舞を完成できた。

●参加者の感想

エイサー練習をしっかりと取り組むことが、自分自身できていたと思う。特に海外参加者が一生懸命振り付けを覚えようと必死に取り組んでいたことに感動した。全員で一つの素晴らしい演舞をしたい。(県内参加者)

エイサーの踊りをさらに覚え、皆で一緒に楽しく練習できた。沖縄で他のウチナンチュ達と一緒にエイサーを踊ることは一生忘れない思い出になると思う。(海外参加者)



■【アフタープログラム】 8月7日(火)

実施内容：●プログラム振り返りワークショップ
●おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018展示物作成
●7日目振り返りシート・作文提出 ●Tシャツ寄せ書き

- 13:00 集合・出席確認
- 13:05 ワークショップ
・事業前に立てた目標に対しての結果を作成・発表
・今後の目標を作成・発表
- 13:45 展示物作成についての説明
- 13:50 展示物作成
～プログラム7日目の振り返りシート・作文を提出～
- 16:30 Tシャツに寄せ書き
- 17:00 片付け
終了・解散

アフタープログラム 13:00~17:00

●目的

- ①プログラム振り返りワークショップを行い、本事業前・後の参加者各自の変化や気づき、目標達成度を確認する。また、今後の目標設定を行い、参加者全員で共有する。
 - ②JICA沖縄で開催される『おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018』でウチナージュニアスタディー事業紹介のための展示物を参加者全員で作成する。
- また、ウチナージュニアスタディー事業の思い出として、参加者同士でオリジナルTシャツに寄せ書きをする。

●実施内容

- ①事業前に立てた目標の振り返り・今後の目標設定
- ②展示物の説明
- ③展示物作成
- ④7日目の振り返りシート・作文を提出
- ⑤Tシャツに寄せ書き

●結果

事前学習で県内参加者が立てた本事業への目標を達成できたかを共有したところ、「達成した」という県内参加者が多く見られた。展示物作成は参加者全員が積極的に、写真選び担当・切り抜き担当・貼る担当と分かれ、楽しく作業を行った。またTシャツの寄せ書きでは、「また会おう」という言葉など再会の誓いも書かれていて、参加者は強い絆でこれからも繋がっていくと感じた。



今後の目標作成



展示物作成



参加者同士でTシャツに寄せ書き



アフタープログラムでの全体写真

見送り

日時：8月8日(水)・9日(木)・10日(金)・14日(火)

場所：那覇空港



見送り

日時：8月8日(水)・9日(木)・10日(金)・14日(火)

場所：那覇空港



見送りの日は、県内参加者も見送りに参加した。
海外参加者が搭乗口に向かう際に、泣き出す参加者や強く抱擁する姿が印象的だった。
また、見送りに参加できなかった県内参加者とテレビ電話で会話をしている姿も見られ、
一週間という短い時間ではあったが、強い絆で結ばれたと感じた。

日時:11月23日(金) 10:00~17:00

11月24日(土) 10:00~16:00

場所:JICA沖縄国際センター 本館2階202号室 沖縄県ブース

おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018

●展示内容

11月にJICA沖縄国際センターで開催された「おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018」の沖縄県ブースにて、アフタープログラムで作成した展示物を展示し、来場された多くの方たちにウチナージュニアスタディー事業紹介を行なった。

●実施

11月23日の1日目は、2017年度ウチナージュニアスタディー参加者、大城里緒さんが訪れた方に本事業の紹介を行った。

そして11月24日の2日目は、今年度の県内参加者、平田明日香さんが本事業の経験談・事業紹介を行った。今年度は玉城デニー沖縄県知事のサプライズ来場もあり、両日大盛況のJICAフェスだった。



2017年度県内参加者：大城里緒



2018年度県内参加者：平田明日香

10/29

眞榮城 海人(ボリビア多民族国/ボリビア県人会)
世界のウチナンチュの日の島唄カラオケ大会にて三線披露

11/7

与儀 希莉乃(神原中学校3年生)
那覇地区スピーチコンテストで学校代表として出場。優良賞で入賞
テーマ「ウチナージュニアスタディーについて」

11/8

マクドウェル 丈(イギリス/英国沖縄県人会)
JAPAN MATSURIにてエイサー大太鼓を披露
(毎年イギリス県人会のロンドン沖縄三線会参加)

11/14

荒本 樹乃(前原高校3年生)
校内発表
テーマ「ウチナージュニアスタディーについて」

11/18

与儀 希莉乃(神原中学校3年生)
学習発表会
テーマ「ウチナージュニアスタディーについて」

12/24

比嘉 優(開邦高校2年生)
国立劇場おきなわにて開催
「世界のウチナンチュの日 移民の歴史啓発劇～アフタートークイベント」登壇

1/31

親泊 まり奈
レッツスタディー出前講座～宮古島平良中学校編～でUJS報告会



「世界のウチナンチュの日の島唄カラオケ大会」
眞榮城 海人



「那覇地区スピーチコンテスト優良賞」
与儀希 莉乃



「JAPAN MATSURI」
マクドウェル 丈



「世界のウチナンチュの日 移民の歴史啓発劇～アフタートークイベント」
比嘉 優



「レッツスタディー出前講座」
親泊 まり奈



田場 美響(14)

Mion Taba

沖縄県立与勝緑が丘中学校

私は最初、言葉の壁にとっても苦戦していました。英語が得意というワケでもなく、何を聞いて話題をつくるのかも分かりませんでした。けれど、周りの県内参加者が仲介してくれたり、海外参加者が日本語を使ってくれたり、皆の優しさにすごく助けられました。

アクティビティを通して、グループの仲間との距離が縮まるのを実感したし、一緒に過ごすなかで、笑顔が絶えなかったように今は思います。このようになったのには、自分自身に変化があったからだと思います。例えば最初の頃という、自分に自信がなく、せっかく海外参加者が話しかけてくれても、困ってしまい、言葉の口から出てこないことばかりでした。でも今の私なら、まずは日本語でもいいから、自分の意志を相手に伝えようと思います。たどたどしい英語でも、単語や身ぶりを使うだけでも、想いを伝えられる。この勇気を私はUJSで学びました。

それからの毎日は、とても楽しいものになりました。私たちが分かり合えば、合おうとするほどつながりが強くなっていく気がします。各言語の人ばかりと話していたけれど、日を重ねるごとに、皆と一緒にじゃなきゃ楽しくない。言語なんてなんてことない。という強みが芽ばえたと思います。

事業を終えて、私たちは、言葉を国を越えて、大きなつながりをもてたんじゃないかと考えています。最初はウチナンチュというたった一つのつながりだったけれど今では、一言で言い表すのが難しいくらい互いを思い合っている。そう思います。たった一週間という時間は一秒も忘れたくない宝物になりました。

出会えたキセキのおかげで、時分の夢が一つ増えました。この事業で出会えたみんなはもう家族。それ以上になることでしょうか。出会いに感謝。そして、皆が私にとって大切な人達です。大好き。ありがとう。



親泊 まり奈(14)

Marina Oyadamari

宮古島市立平良中学校

私はこのウチナージュニアスタディ事業に参加して自分が変わりました。以前よりオープンマインドな人になれたと思います。ツアー中積極的にコミュニケーションをとるようにしました。海外参加者とは、使える簡単な英語で話しました。私は一つ感心したことがあります。それは、海外参加者の中には母国語と英語両方が話せる人がいたことです。わたしとあまり年齢も変わりませんでした。英語で会話している姿を見てとても刺激を受けました。もし私が英語もっとはなせていたら、よりいろんな会話ができたと思います。世界の共通語はやっぱり英語だなと思いました。英語が話せるとより世界のいろんな人とコミュニケーションがとれることを実感しました。私はこれから英語の勉強を頑張って、将来は国際的な人材になりたいです。

三日目の東の沢トレッキングでは、沖縄の自然のすばらしさを感じることができました。とても久しぶりに川を散策して、すごく新鮮さを感じました。足のつかない場所で泳いだり、とび込みをしたり、沖縄の自然にはいろんな魅力がつまっていると思います。私の心をすごくわくわくさせてくれました。しかし、現在どんどん建物が建てられ自然が減って行ってます。私が体験したような沖縄の自然のすばらしさを次世代の人たちにも体で感じてもらうには、私たちが沖縄の自然を守っていくことがすごく重要だと思います。

7日間私はたくさんの事を学んだり、吸収することができました。移民した目的、いろんな国に県人会があることなど私には知らなかったことがたくさんありました。県立博物館では万国津梁の鐘は昔首里城にあって戦争を体験してきたことなど、初めて見たり聞いたりする事が多かったです。

みんな国は違うけど、同じウチナーンチュ同士で様々な体験できて私は一生の宝です。今回このメンバーに出会えたことに感謝していきたいです。



与儀 希莉乃(14)

Kirino Yogi

那覇市立神原中学校

私は、この一週間でたくさんのことを学び、成長することができました。

ウチナージュニアスタディーに参加したことで、沖縄の歴史や文化・観光・平和や移民について多くのことを知り、前よりももっと沖縄が好きになりました。そして、沖縄についてもっとたくさんを知り、世界に伝えていきたいと思うようになりました。

また、この一週間で言葉の壁を乗り越え、家族のように仲良くなれて良かったです。英語があまり話せない私は、多くの不安を抱えて初日を迎えました。日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語が飛び交い、どうしていいのか戸惑っていた私にみんなは優しく声をかけてくれました。そして、エイサーを教え合ったり、食事のときにおしゃべりしたりして、互いのことを知り、違いを受け入れることでどんどん仲良くなりました。最終日の一分間スピーチでは、泣いた人も多く、出会えて良かった！この事業に参加して良かった！と思いました。言葉が違くと、伝えられないことも多くあったけど、今までの私と違って、伝えようと努力できるようになり、英語の大切さに気づくことができました。

だから私は、もっと英語を勉強して、伝えたいことを伝えられるようにしたいです。そして、世界と沖縄を繋ぐ人になりたいです。

この一週間を通して、私が感じたことは、どこにいても「ウチナーンチュ」で、言語なんて関係ないということです。相手を思う優しい気持ちや支えてくれている方々に感謝する気持ちを一人一人が持つことで、世界は平和になると思います。これからは、誰かがやってくれるからと待つのではなく、自分が誰かのためにやろうと行動できる人になりたいです。みんなと出会えて本当に良かったです。最高の思い出をありがとうございました。



上原 涼(17)

Suzu Uehara

沖縄県立那覇国際高等学校

私はウチナージュニアスタディーで学んだことが沢山あります。沖縄戦の悲劇やアメリカ統治におかれていた沖縄、日本復帰したことを学び、何か大きなことが起こる度に立ち上がり支え合ってきたウチナンチュはすごく強くてカッコいいと思いました。また、実際に空手の世界大会を見たり、しゅんかさんからエイサーを習うことで沖縄の文化の奥深さを感じ、沖縄に誇りを持てるようになり、すごくうれしかったです。また、トレッキングを通して沖縄の自然を肌で感じることができました。沖縄ならではの緑のおいと虫や鳥の鳴き声、冷たい川の水、全てを感じたときに沖縄の自然の一部になれたような気がしてすごく気持ちがよかったです。

私は今回のウチナージュニアスタディーで改めて気づき、今胸を張って言えることが二つあります。それは、やっぱり私は沖縄のことが好きだということです。世界九カ国から来てくれたウチナンチュの仲間達と沖縄を学び、沢山意見を交わすことで私達は今まで知らなかった沖縄を見つけ、日を重ねるほどに私もウチナンチュなんだという自覚が付き、沖縄のことが好きだと胸を張って言えるくらい自信が付きました。

もう一つ、私が自信を持って言えることは、十八期のメンバーに出会えて本当に良かったということです。一週間、皆と過ごして初めは少し恐かったけど、話をして笑い合っ一緒にご飯を食べて、沢山遊んで、国や文化は違っても私達はいつのまにかウチナンチュの絆で結ばれていました。皆と過ごしてうまく自分が出せなくて悩んだ日もあったけど、皆優しく、皆のことが大好きになりました。

私は今回、沖縄や世界のウチナンチュへの興味が深まりました。この経験を今後の人生に大きく活かしていきたいです。濃くて一瞬で最高の一週間をありがとうございました。



豊里 梨実花(17)

Rimika Toyozato

沖縄県立首里高等学校

「ありがとうがあふれる研修にしよう」という言葉から始まった事前研修も含めた九日間は長いようであっという間に終わりました。面接の時に一番印象に残っているのは「英語が使える海外参加者とはどのようにコミュニケーションをとるのか」という質問でした。その時はとっさに「ジェスチャーなど使って」と答えましたが、英語以外の言語に触れたことがなかったため、あまり実感がわきませんでした。しかし、実際海外参加者と話してみると、私の拙い英語を一生懸命理解しようとしてくれたり、ジェスチャーを使ったりして話すことができるということを知りました。このことから、相手に一生懸命伝えたいという思いがあれば言葉の壁を乗り越えることができるということを学びました。また、海外参加者には二ヶ国語以上の言葉が話せる人もいてとてもすごいと感じたし、英語をもっと話せるようになって多くの人と交流をもてるようになりたいという目標もできました。私は今まで沖縄に住んでいることを特別に感じたことはありませんでした。しかし、この研修で沖縄の歴史や文化、自然、平和などについて実際に体験したり、話しを聞いていく中で考えが変わっていきました。私が思う沖縄は、平和や文化を発信しみんなが楽しく暮らすことができる場所です。沖縄戦での悲劇を二度と繰り返すことがないように自分に出来る小さなことから平和につながることを実行していきたいと思いました。また、エイサーは海外参加者の中で団体に所属している人もいて踊っていてとてもかっこよかったし、沖縄の文化が世界中に広がっているということを知り嬉しくなりました。今回の研修で様々な国の人と交流をしたことで、今までは教科書でしか見たことのなかった海外を身近に感じ、いつかこの研修で出会った友達を頼りに世界旅行に行ってみたいと思いました。



新城 未亜(16)

Mia Shinjo

沖縄尚学高等学校

今回の研修ではとても私にとってのウチナンチュについての考え方や生き方など変わりました。良き学習仲間もできたり、なかなか体験の出来ないことをしたりととても濃いものでした。学んだことやこの研修のことをより多くの人を知ってもらえるようにと私は思っています。そのためには、学んだことや話し合ったことをまとめたり、みんなとシェアできるようなものを作ったりしなければならないと思います。学校の活動やボランティア活動にも積極的に参加したいと思います。

沖縄戦を語られる支店がそれぞれ違った子たちと一緒にディスカッションすることはとても貴重でした。しっかりとみんな相手の話を受け入れ、自分の意見も入れ討論し納得や対立をして深い絆が生まれたと感ずることが出来ました。この体験をこの参加者だけのものにするのではなく沖縄にいる学生全員にしてもらいたいと思うし、感じてもらいたいと深く思います。

私たちは育った国も環境も違い、ウチナンチュというキーワードだけで最初は少し不安もありましたが、ウチナンチュのルーツをみんな共有していることでイチャリバチャデーという方言のように一週間でとても仲良くなることができました。本当にすごいことだなと今も思います。この研修では先祖が繋いでくれたウチナンチュという強い絆を学び受け継いだと思うので、またそれを繋いでいけることができる架け橋のような存在になれるように、頑張っていきたいと思いました。この研修はこれで終わりではなく、一人一人が架け橋のような存在になり、夢に向かって頑張ることでもまた会えると信じています。この研修で私はウチナンチュであることを誇りに思いました。研修に参加できたことを嬉しく思い、感謝しております。ありがとうございました。



荒本 樹乃(17)

Juno Aramoto

沖縄県立前原高等学校

ウチナージュニアスタディ事業に参加して、私は世界のウチナーンチュと共に多くの思い出を作り、多くを学んだ。

初日は言語の違う海外参加者を目の前にし、緊張して上手く話すことができなかった。間違えた英語を話すことが怖かった。しかし、二日目になると美ら海水族館や東村での宿泊などをして皆とコミュニケーションを取る時間も増えて、もっと積極的になろうと決めた。グループリーダーということもあり、グループや全体をまとめられるか不安もあったけど日本語を話せる海外メンバーと連携を取りながら徐々にまとめることができた。

プログラムのなかでは沖縄のことについて深く学んだ。沖縄県民なのに知らないことの方が多くて恥ずかしい気持ちになったけど、それと同じに新しいことを知る喜びもあった。特に、平和とアイデンティティ・移民の研修では、一人一人の考えや文化を尊重し合いながら平和を意識して生活すること、逆境に負けずに自分の大切な人達を想って頑張ることの大切さを学んだ。他にも歴史、文化、自然など五感を通じて沖縄のことを学ぶことができた。学んだのは沖縄のことだけではない。文化や言語が違っても大切なのは言語力ではなく“伝えたい”という思いが大切だということ学んだ。

私たちは話す言葉も異なっていたけど毎日一緒に話して、遊んで、ご飯を食べて、寝ているうちに皆が家族のような存在だと思った。たった一週間しかなくてあっという間に過ぎてしまったけど普段の生活では学べないこと、経験できないことばかりだった。今後もずっと参加者の皆と連絡を取り合って沖縄や、世界の沖縄県人会の発展に何か一つでも携わりたい。この繋がりを一生大切にしたい。今回このような貴重な経験ができて嬉しかったです。本当にありがとうございました。



與儀 光洋(15)

Koyo Yogi

学校法人 興南学園 興南高校

7月29日にウチナージュニアスタディーが始まりました。ホテルにつき、みんなのいる場所にいくと、海外参加者のみんなが英語で話していて、自分の英語が伝わるかとても不安でした。でも、その日の昼ご飯でアンジェラといっしょに食べて、自分の英語を頑張って理解しようとしてくれて嬉しかったです。みんなと仲良くなったのは、2日目で、東村で話あったりしてお互いを知ることができました。3日目のリバートレッキングや、BBQ、キャンプファイヤーも全てが楽しかったです。4日目は、平和学習をした。僕は、初めて、ひめゆりの塔に行き、ひめゆり学徒隊のことについて学びました。ひめゆりの塔には、ひめゆり学徒隊だった島袋さんがいらっしゃっていて貴重な話を聞くことができました。島袋さんは20年前から体験した話を伝えているらしく、初めの頃は、心が本当に痛くて、話すことが出来なかったそうです。島袋さんは、「命の大切さ」という言葉を何回も話してくださり、命はもっと大切にしないとだめだと思いました。また平和祈念公園では、沖縄戦を学んだり、平和の礎に刻まれている方の子孫である参加者達と名前を見つけたりしました。先祖に戦争で亡くなった人がいるのは悲しいことだなと思った。二度と戦争は起こしてはいけないと感じた、5日目、6日目は沖縄の文化を勉強しました。印象に残っているのは、6日目のアルベルト城間さんの講演で、すごく良い声でした。最後に歌った「片手に三線を」は大好きな曲となった。7日目には修了式を行い、みんなでスピーチをしました。みんなと離れるのが本当に悲しかった。少し泣いてしまった。最後のエイサーはとても楽しかったし、思い出となった。

UJSは、沖縄の文化や、海外の参加者と交流できる素晴らしい企画でした。学んだことを大事にしていきたいです。



服部 進之介(17)

Shinnosuke Hattori

沖縄県立向陽高等学校

「ウチナージュニアスタディは明日か...」前日の私はそこまで楽しみと思うことはできませんでした。なぜなら、前日まで模試や講座や勉強やらで疲れていたからです。そんな気持ちのまま、私は初日の朝、集合場所となるホテルへ向かいました。着いてみると、県内、海外の参加者がいました。最初は緊張してしまって、なかなかしゃべりかけられず県内参加者とたくさん話してしまいました。ウェルカムパーティーでは、空手や歌、ダンスをしました。ちゃんと成功できたので良かったです。2日目からは、だんだんみんなと話せるようになってきました。美ら海水族館と海が印象的でした。6人でバンガローに泊まって、とても仲が深まりました。3日目はリバートレッキングをして、みんなで飛びこんだり、フリータイムでは、バレーボールとサッカーをしました。この頃には本当に仲良くなったと思います。4日目は平和学習をしました。みんなで改めて沖縄戦と平和について考えることができました。5日目は沖縄の文化を学びました。6日目は今までのまとめをし、7日目はさよならパーティーやエイサーなどをしました。私は今回のこの貴重な経験は一生忘れないと思います。たくさんの友達ができ、たくさんの沖縄のことを学び、たくさんの気持ちが入り交って、ほんとに良かったです。中でも、エイサーはすごく良かったと思っています。0から始めて、5日ほどで2曲もおどることができたのは、本当にみんなで協力して頑張ることができたからだと思っています。これからもみんなと交流を続けていきたいです。私は将来、世界の色々な国を周ってみたいという夢があるので、県内参加者と一緒にたくさんの国に行って、海外参加者とまた会いたいです。このような貴重な機会を与えてくれた、スタッフや県のみなさん、本当にありがとうございました。



川端 亮司(18)

Ryouji Kawabata

沖縄県立向陽高等学校

私はこのジュニアスタディーに参加できて大きな成長することができたと思います。最初は言語も違い緊張しているため、不安がありました。しかし、二、三日とメンバーと学習を通していく中で緊張もとけ、本当の家族のような存在となりました。

たくさんの学習がありました。私がいいなと思ったことが二つと、反省したことが一つあります。いいなと思ったことの一つ目は世界中のうちなーんちゅで島袋さんの戦争体験の話しを聞いたことです。これはめったにあることではないうえにそれをみんなで聞き、考え、そしてこれからどうするか議論することで世界中に平和が広がっていくと考えるからです。もうひとつは、大浴場で、みんなでお風呂に入ったことです。あんなにたくさんの国籍の違う、うちなーんちゅ達とお風呂に入り、色々なことを語りあうことはめったにできる経験ではないと思い、とても嬉しく感じたからです。そして残念だと感じ反省したことは、沖縄に住んでいるうちなーんちゅの方が沖縄について知らないことも多いということです。それは、僕達よりうちなーぐちを必死に覚えようとしていたり、沖縄の参加者より一生懸命にエイサーの練習をし、上手に踊っていたりと沖縄の人より沖縄に興味を持ち学ぼうという好奇心が強いからなんだと気づきました。その心は私たちは見習わなければいけないのだと感じました。

このように各国のうちなーんちゅと共に学びご飯を食べ、一緒に風呂に入り、共に眠ることはもう二度とない経験かもしれません。この貴重な経験とこのプログラムでできた仲間たちとのつながりを絶対に途絶えることのないよう大切にすると同時に、これからもっと大きなうちなーんちゅん誇りを持ち、世界中にうちなーんちゅの輪を広げていきたいと思います。



具志堅 咲希(17)

Saki Gushiken

沖縄県立北中城高等学校

ウチナージュニアスタディーに参加して、私は違う言語の人と話す楽しみ、そして多くのことを学びました。

私達日本人は、英語や他の言語を話す時に「間違っているかもしれないから話せない」と思うのが普通ですが、今回の交流会で勇気を持って、自分の知っている限りの英語で話してみたら、私の話す言葉を理解してくれたり、逆に私の分からない言葉はたくさん教えてくれました。

語学だけでなく、沖縄の忘れてはいけない歴史、そして大切さを学ぶ事が出来ました。今回の交流を通して私は、おばーと日本語ではなく、うちなーぐちで話してみたい、と心から思うようになりました。そして、なによりも忘れてはならない、「沖縄戦、第二次世界大戦」の事を私達は、体験者の島袋よし子さんから聞く事が出来ました。私達には戦争の恐さを、後世に伝える業務があると感じています。なので、今回戦争について学ぶ事が出来て、本当によかったと思っています。

戦争の事もですが、私は自分が住んでいる沖縄についてあまりにも知らない事が多くありました。そして、その知らなかった事が出来、海外参加者の皆と一緒に学ぶ事が出来、本当によかったです。

今までの私は、ただ海外に興味がある。それだけでしたが、このプログラムを通して私は、沖縄の事をウチナーンチュとして、もっと世界に広めたい。そう思うようになりました。そして、私は行動宣言で、「観光地で働く」と宣言したので海外で語学を学んだ後沖縄に戻り「沖縄がすき」と、思って帰っていただけような接客が、出来るようになりたいです。

私は、今回の交流会で、考え方やこれからの人生が変わったような気がしました。ウチナージュニアスタディーで出会った三十三名は私にとって、大切な存在となりました。



安次嶺 心蘭(16)

Miran Ashimine

沖縄県立球陽高等学校

私は、初めみんなと一週間を過ごすのにとっても不安を感じました。正直、「早く家に帰りたい」と思うほどでした。しかし、それはすぐに変わり「みんなともっといたい。喋りたい」と思うようになりました。また、私は最終日にみんなとの絆を強く感じました。みんななどのお別れが近づくのととても寂しく、今すぐにでも会いたいとおもうほどです。しかし、私達は、いつまでもウチナンチューの心で繋がっています。その心は、どんなことがあっても途切れません。だから、私たちは大丈夫です。いつまでも友達であり、親友であり、家族です。私は、この仲間達が大切で大好きでわたしにとって大きな存在です。今回の思い出は決して忘れることはないです。

また、沖縄について今まで以上に深く学習して、私は自分の無能さに気づきました。学んでいくたび、私の目には、沖縄がとても輝き沢山の魅力をもつ素晴らしい場所に見えました。また、昔から世界中の多くの人がこの小さな島沖縄に魅了された理由がわかった気もしました。今、私はこの沖縄にいることに誇りをもっています。

しかし、そんな沖縄にも悲しい過去があり、現在大切な自然が失われてきていることを決して忘れてはならないと思います。それを解決するために一人一人が沖縄について真剣に学習し、自然にはもっと触れるべきです。そして、戦争経験者が減ってきている今、話すのを待つのではなく、自分から聞きに行くことが大事だと感じました。

私は、今回この事業に協力してくれた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。私達が毎日楽しく学べたのは影で沢山の支えがあったおかげです。本当にありがとうございました。

最後に私は今回の事業を振り返って世界と沖縄を繋ぐ存在になりたいと思いました。そのためにこれからは今まで以上に日々の学習に励み、沖縄にこの恩返しをしたいです。



平田 明日香(17)

Asuka Hirata

沖縄県立南風原高等学校

今回、ウチナージュニアスタディに参加して、私は沖縄が好きだということを再認識し、それと同時にさらに沖縄について学び、人々に伝えられる人材になりたいと思いました。このプログラムで、私は海外参加者から沢山の事を学び、考えさせられました。まず、移民学習では様々な国から見た沖縄のイメージや、「どうしてこうなの？」と聞かれたらなんでだろう？と感じてきたり、色んな角度から沖縄や日本人の考え方を見ることができました。平和学習では、初めて写真を見たりして沖縄戦について知った子が怖がっていたり、最後まで沖縄戦の事が一番印象に残った事を発表してくれた海外参加者がいて、改めて戦争が怖くて愚かなものだという事を感じさせられました。また、私たち県内参加者よりも海外参加者の方が沖縄の伝統芸能に興味・関心があるということを感じ、沖縄でももっと伝統芸能について広められたらいいなと思いました。このプログラムを通して私には九カ国に友達ができました。そしてその仲間たちと一生忘れることのできない最高の時間を過ごすことができました。なんだかぎこちなくて言葉の壁を感じていた初日。一分間スピーチやエイサーを通してみんなで泣いた最終日。本当に濃い一週間でした。三日目のプログラムではOB・OGの皆さんが準備してくれたゲームをグループ対抗で対戦しました。その時は、言葉の壁も感じることなく、全員で応援して、笑って、とても楽しかったです。ゲームの後のキャンプファイヤーの時の星が沢山できれいだった空を私はずっと忘れないと思います。

このプログラムに参加した仲間はみんな、同じ沖縄の血が流れたウチナーンチュで、私の大切な家族です。今回、このような素晴らしいプログラムに参加させていただきありがとうございました。まずはこのプログラムで学んだことを周りに発信する事から始めようと思います。



上門 瑞希(16)

Mizuki Uejo

沖縄県立与勝高等学校

ウチナージュニアスタディでの経験は、私自身を強くしてくれたと思います。私は、人見知りをする性格でした。ツアーが始まる前まで、全てが初めての経験に、楽しみよりも不安の気持ちでいっぱいでした、その不安は的中してしまい、私は打ち解け合うことにとっても時間がかかってしまいました。全く英語で会話ができない自分自身にイライラして、逃げ出したくなる時もあったし、どうしてこの事業に参加したんだろうと、自問自答を繰り返すこともありました。正直最初の頃は、本当に辛かったです。でも、沖縄を学んでいくにつれて、私の気持ちは、みんなに近づいていきました。育った場所は違っても、文化が違っても、言葉が違っても、同じ沖縄のルーツを持っている海外参加者のみんなは、私たち以上に、沖縄のことを想っていました。沖縄のことを知らないのは、海外参加者ではなく私たち自身だと思いました。特に、平和学習ではとても貴重な体験ができました。元ひめゆり学徒隊の島袋さんから、話を伺った時、島袋さんは何度も「命が大事」と仰っていました。私は後ろの方で立ちながら聞いていました。たくさんの参加者が涙を流していたのがとても印象に残っています。また、その後のグループワークでは、それぞれがどんな気持ちになったのか、平和に向けて何からするべきなのか意見交換をしました。海外参加者と平和について考えることで、沖縄だけの問題ではなく、世界中の問題・課題であると感じたうえに、みんな平和であることを望んでいるんだと感じ、本当に胸がいっぱいになりました。このツアー中、胸がいっぱいになったことはたくさんあります。最終日はみんな涙が止まらなくて、泣かないつもりでいたけれど、私も泣いてしまいました。人見知りだったから、その分みんなの優しさを感じたり、優しさに気付くことができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



元谷 和滯(16)

Nagomi Mototani

沖縄県立コザ高等学校

今回のプログラムへの参加で、私は自分の大きな成長を感じました。

今回の七日間で自分の関心のある平和学習をはじめ、平和祈念資料館では貴重な資料がたくさんあり、目を逸らしたくなるような残酷な事実がたくさん記されていました。私が一番にしたいと望んでいたウチナーンチュの方々との沖縄戦に対する見方が大きく変わったのを強く感じました。戦争は仕掛けた側、仕掛けられた側、勝者、敗者、巻き込まれた側、この五つの見方から見ていかないといけないということを強く感じました。今沖縄を含め日本ではこの5視点すべてで授業を行うことはありません。今回のプログラムで学んで得たことを周りの人へ伝えていく必要性を強く感じました。

そして今回のプログラムでは、沖縄の文化だけでなく人との関わり方を学びました。言葉が通じない方との交流は最初は恐怖でしかありませんでした。しかし、日を重ね、色々な方々との交流をしていくうち言葉の通じない方との交流をすることに対して怖いという感じなくなってきました。これは、周りの方々が自分に優しく積極的に話しかけてくれたことにあります。そのおかげで自分から話しかける勇気を持つことができ、スペイン語、英語、ポルトガル語、日本語問わず、ジェスチャーや通訳の方のお手伝いをお借りして、沢山の方と交流することができました。

私は今回のプログラムに参加してよかったと強く感じています。世界各国にいるウチナーンチュの方々がこの広い世界を一本の糸として繋げることができる存在であることを学びました。これらを経験だけでおわらせることなく、自分自身から発信し、もっと多くのウチナーネットワークを広げたいです。



比嘉 優(16)

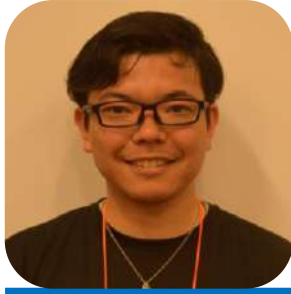
Yu Higa

沖縄県立開邦高等学校

ウチナージュニアスタディ事業初日、私と海外参加者との間には壁があったように感じられた。それは言語や文化の壁であり、当時の私には到底越えられない壁だった。英語は得意だったが、実際に彼らと顔を合わせてみると、自分の英語は彼らに通じるのか、彼らと友達になれるだろうか、不安が波のように押し寄せ、自分でも驚くほど何もできずに自分が臆病であることに気付いた。

そんな中で色々な活動が始まり、グループ学習や会話の中で、幾度となく彼らの優しさに助けられ、寛大さを知り、失敗を恐れずに挑戦することを学んだ。また、日々の沖縄についての学習を通して「自分はウチナーンチュだ。」と胸を張って言えるほど沖縄県を誇りに思うことができた。毎日自分の成長を感じることができ、自信がつき、気づけばみんなと仲良くなっていた。全てを書き連ねることはできないので一言にまとめたいと思う。

「友情に国境はない。」第三者からすると陳腐な表情かもしれない。けれどもこの言葉は私の感じたことを表すには最高の言葉だ。もしもこの事業に参加していなかったら南米はただの遠い国だったであろうし、ボリビアに行きたいなんて微塵も思わなかっただろう。世界中、沖縄中に友人ができ、かけがえのない経験ができた私は、間違いなく幸せ者である。私のできる恩返しとして、ウチナーネットワークを広げ、ゆいまーるの心を広めることに尽力しようと思う。



大浜 秀吾(23)

Shugo Ohama

今年、私がウチナージュニアスタディーの県内青年リーダーに応募した理由は三つあります。それは「自分が参加した時に感じたものを今年の参加者にも感じてもらいたい」、「自分の将来の目標のために運営のやり方を近くで勉強したい」、そして「UJ Sに対して恩返しをしたい」です。この三つを意識して七日間のプログラムに臨みました。

プログラム一日目、県内・海外参加者が初めて顔を合わせました。それぞれ緊張していて会場が静かだったのを覚えています。午前のオリエンテーションでの自己紹介や外部講師を招いての移民学習などを経て卒業生ボランティアの交流プログラムなどで少しそれぞれの距離が近づいたのでとても安心しました。

二日目は、県庁を表敬したあと北部に向かいました。県内参加者が事前に作成した沖縄の地域紹介をしながら本部町にある美ら海水族館に行きバックヤード見学やイルカショーなどを見物しました。海水浴では参加者同士楽しく交流しました。リーダーとして皆をまとめて集団で行動させる難しさを痛感しました。

三日目の東の沢トレッキングでは、全員がびしょ濡れになりながら協力し交流を深めました。誰も大きなけがやトラブルに巻き込まれずに過ごすことができました。

四日目の平和学習では、平和祈念資料館とひめゆり平和祈念資料館を見学しました。海外参加者の一部にとっては沖縄戦があったことが初耳でとてもショックを受けていたり平和について全員が真剣に見学をしていました。

このように沖縄にルーツがある海外の若者と県内に暮らす若者が出会って交流し絆を深めることは本当に素晴らしい事だし、こんな事をできるのも沖縄だけだと思っています。

私の将来の目標は、沖縄と世界を繋ぐ人間になることです。そのために頑張っていきます。



カニングハム 陽優 ウィリアム(15)

Hugh William Cunningham

アメリカ合衆国

アトランタ沖縄県人会

ウチナージュニアスタディーは素晴らしい事業で、私に強い印象を残しました。沖縄の自然や文化、歴史を学ぶなど素晴らしい経験ができたし、また機会があれば参加したいです。当分この事業で出会った友達と会えなくなると思うと悲しいですが、これからもみんなとコミュニケーションを取り続けていきたいし、いつかきっと再会できることを願っています。

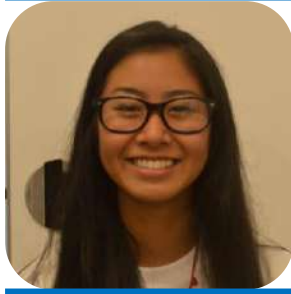
沖縄の歴史学習は悲しかったけど目を見張るものがありました。沖縄戦の間、沖縄では何が起こっていたのかこれまで聞いたことがなかったので、そのことについて学んだり、直に体験談を聞いたりしたときは衝撃を受けました。沖縄が抱く平和の理念が世界中に普及していくことを願っています。

この事業の中で自然学習がとてもおもしろかったです。これまで沖縄の海の生物について何も知らなかったの、美ら海水族館に行って沖縄周辺に生息する魚が見られて勉強になりました。川トレッキングや海はみんなで開催できた楽しいアクティビティーでした。私にとって自然学習がこの事業の中でも特に思い出深く、これからもっと沖縄の野生生物について学習したいと思いました。

文化・社会学習もとても楽しめました。みんなでエイサーを学んだことは良い経験となったし、公設市場の散策や空手の試合見学、紅型作りも楽しかったです。これをきっかけに沖縄での生活や文化をもっと学びたいと思いました。

ツアー初日は、誰のことも知らなかったし、もしかしたら誰とも仲良くなれないのではないかと少し不安でした。でも、みんなと話したり、みんなのことを知ったりしていくうちに不安はあっという間に消えました。このツアーを通して本当にたくさんのすてきな友達ができました。みんなともっと一緒にいたかったです。みんなと築いたたくさんの思い出を絶対に忘れません。これからもみんなとコミュニケーションを取り続け、いつか再会できることを願っています。

ホストファミリーと過ごした時間やウチナージュニアスタディー事業など、今回の旅はどちらも全体的に素晴らしいものでした。ウチナージュニアスタディー事業は、私の人生においても思い出深い経験となったし、ホームステイも楽しかったです。いつかまた沖縄に戻ることができたらもっと沖縄について学びたいとこの経験を通して思いました。



マックミリアン 夢彩(16)

Yuah Macmillan

アメリカ合衆国

フロリダ沖縄県人会

ウチナージュニアスタディー事業で過ごした7日間はあっという間でした。この事業は沖縄の文化について学習する1週間のプログラムでした。私は9年間沖縄に住んでいたため、すでに様々なことを知っていると思っていましたが、実際に沖縄についてたくさんを学びました。例えば、沖縄戦で何が起こったのか沖縄側の視点で学ぶことができました。特にひめゆり平和祈念資料館で当時17歳だった戦争経験者の女性の話を聞いたとき、とても心が苦しくなりました。このツアーで沖縄について学習するまでは、沖縄とは、昔私が住んでいた場所、家族（親戚）が住んでいるとてもきれいな場所という認識しかありませんでした。もちろん沖縄は美しい場所だと分かっていたけど、生き生きとした自然、太陽の光が差し込むキラキラした海を勢いよく泳ぐ生き物を目にするたび、私の心は幸せでいっぱいになりました。また、なぜ沖縄はたくさんの観光客で溢れているのか分かりました。私は国際通り・平和通りは、観光客向けのつまらない場所だと思っていました。でも実際は、日用品を売るなどの商売をしながら人々が暮らしていました。私たちが行った時もそうだったように、天井があることで雨の日でも濡れる心配がなく、また、クーラーがあることで暑い日でも快適に過ごすことができるなど、沖縄の人は周りの人のことをよく考えているなと思いました。また、国際通りは、昔あったアメリカの映画館が名前の由来であると初めて知りました。なにより沖縄の文化で忘れてはいけないのがエイサーです。私の県人会にも、エイサーの文化を持ち帰ることができて本当に嬉しいです。このツアーで経験したすべてがとてもすばらしかったけど、このツアーで出会った友達がいなかったらこんなにも楽しめなかったと思います。みんなと築いた思い出は一生忘れないし、みんなと出会えて本当に幸せです。もしこのツアーをもう一度経験できるとしたら、変わらない内容でまた参加したいです。このようなすばらしい事業に参加できたことに感謝します。この事業がずっと続いていくことを願っています。世界中にいるウチナーンチュに沖縄のことを教えていくべきです。私は、沖縄やその歴史、ウチナーンチュの人々をどれだけ愛しているか再認識することができました。



オスピナ アンジェラ ミチコ(14)

Angela Ospina

アメリカ合衆国

ニューヨーク沖縄県人会

ウチナージュニアスタディー事業は一生忘れられない経験となりました。沖縄の人々の生活を体験できたし、忘れられない人たちと出会いました。ツアーを通して、沖縄の文化や歴史などたくさんの事を学びました。沖縄戦以降、沖縄の人々は、暴力や死が再び起こることが耐えられず、島を通して平和を求めていると分かりました。暴力は解決策にはならないし、たくさんの人が死に、悲劇を引き起こす戦争は二度としてはいけないと学びました。特に、幼い頃に戦争を体験した女性の話を聞いた時、たくさんの人が全てを失ったと知って本当に胸が苦しくなりました。どんな理由であれ戦争は絶対に間違っていると教えてもらいました。暴力は何においても解決策にはなりません。

このツアーで出会った世界中のみんなとたくさんの楽しい時間を過ごしました。こんなにも親しくなれると思っていなかったけど、みんなは私にとって家族も同然です。時間が過ぎていることに気づかずルームメイトと何時間も語り合い、夜更かしした夜もありました。お互いコミュニケーションが難しい時もあったけど、なんでも語り合い、みんなと仲良くなれて本当に嬉しかったです。言葉の違う世界各国の参加者が集まっていたので、お互い分かり合えないのではないかと不安もあったけど、ジェスチャーやグーグル翻訳を使って対応することができました。

せっかく沖縄に来られたので、このツアーでの経験について話したいです。アメリカに帰ったら、このツアーで学んだことや写真をパワーポイントにまとめて県人会で発表する予定です。家族や友達にもこのツアーでの経験や参加者のみんなについて話したいです。沖縄に来て家族（先祖）のバックグラウンドや文化について学ぶ機会を得ることができ、本当に嬉しかったです。



小西 ローネン 明(17)

Akira Ronan Konishi

アメリカ合衆国

北米沖縄県人会

友情...文化...アイデンティティ

ホテルの7階に足を踏み入れたツアー初日を振り返ると、悲しさや不安、寂しさをといた感情を思い出します。ドアを開くと参加者やスタッフがいっぱいいて、テレビ番組で見たことのある緊迫した会議室のようでした。心がドキドキしました...

このような感情を抱いていたのが、たった7日前の私です。そして今の私にも、悲しさや不安、寂しさといった同じ感情があります。でも、意味が違います。家族と思えるほどのみんなと離れ離れにならないといけないと思うと寂しいです。もう一度みんなが集まることができるのか、この1週間のような日々をまた過ごすことができるのか分からなくて不安になります。そして、嬉し涙からくる一種の悲しさです。

ウチナージュニアスタディー事業やホームステイを通して築いた絆は一生の宝物です。しんのすけ、ヒュー、トーマス、こうよう、カイト、ジャンポール、しゅうご、トモキ、ジョー、りょうじ、あすか、まりな、きりの、ジュン、みあ、みらん、さき、すず、エリカ、なごみ、ノエミ、みずき、レイケン、じゅの... (みんなの名前で作文を埋めたくないの一部のみ書きす◎) は特に、平和や戦争における素直な気持ちを語り合った、また、ありのままの自分でマカレナを踊り合ったメンバーです。私は、先祖(家族)とは反対側の国の出身ですが、新しい友達やホストファミリーと時間を過ごしていくうちに沖縄に対して暖かな親しみを感じました。

私は、平和の礎やひめゆりの塔のことを一生忘れません。この日学習した内容は、私の平和に対する視点を変えました。沖縄県平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館は悲しくて気が滅入ったけど、第二次世界大戦を沖縄側の視点で見ることや、沖縄の人々が受けた悲劇について学ぶ重要性が理解できたので、できるだけ多くの情報を吸収しようと努力しました。他にも、空手や首里城、伝統文化や食、舞踊、自然など、さまざまなトピックに焦点を合わせた学習も楽しかったです。

このウチナージュニアスタディー事業を成功に導いてくれたスタッフや青年リーダー、参加者、沖縄県庁の方々、ホストファミリー、アメリカの沖縄県人会のみなさんに感謝します。言葉では伝えられないほどこのツアーに参加できて嬉しかったです◎ありがとうございました。



シングルトンレイケン(16)

Laken Shingleton

アメリカ合衆国

ジャクソンビル沖縄文化協会

このツアーに参加するまでは、知らない国に行くことは不安で、あまり楽しみではありませんでした。周りのみんなの方が私よりも楽しみにしていて、きっと楽しいよと何度話をしてくれても信じられず、不安でしかありませんでした。私は日本語が話せないで、誰とも会話ができないのではないかと怖かったです。でも後になって何も恐れる必要はないと気づきました。このプログラムの間、英語が話せる人や通訳してくれる人にたくさん出会いました。また、お互いを理解し合うために同じ言語は必要ないと分かりました。例えば、沖縄県平和祈念資料館（平和の礎）やひめゆり平和祈念資料館（ひめゆりの塔）を訪問した時、私を含めたみんなが、戦争を経験した多くの男性や女性、子供に対して悲しいと感じたと思います。この気持ちは簡単には忘れられません。また、私たちはたくさん笑い合いました。この1週間で築いた私たちの絆は一生ものです。ツアーを通して、沖縄、その歴史や文化、美しい自然についてたくさん学びました。沖縄県立博物館を訪問した際、私たちの先祖がどのような暮らしをしていたのか、自然をどう活かしていたのか学べて、テクノロジーに頼ってばかりのアメリカと違って素晴らしいと思いました。また、第二次世界大戦の間、私たちの先祖がガマの中でどうやって生き延びたのか知れて興味深いと思いました。沖縄の伝統工芸品作りを体験できたことも楽しかったし、さらにそれをアメリカの家族や友達のもとに持ち帰ることができてとても嬉しかったです。私は沖縄で、本当に楽しい時間を過ごすことができました。この思い出を一生大切にしていきたいです。このツアーで出会った友達、沖縄通りのバンボッシュで食べた美味しい食事など共に築いた思い出を私は一生忘れません。家族や友達、県人会の人たちと、ここでの経験や学びを共有したいです。みんなにも世界のウチナーンチュの重要性、その一員であることの特別さを知ってもらいたいです。また、私にとって特別な友達をもたらしてくれた学びの多いこの事業の重要性についても話したいです。初めての沖縄でしたが、また帰って来たいです。



ワング エミリー(15)

Emily Wong

アメリカ合衆国

ワシントン州沖縄県人会

一生忘れられない家族と過ごした、心に残る1週間でした。この1週間の全てを振り返ってまず思いつくのは、ホテルに到着した初日のことです。周りのみんなが何を話しているのか全く理解できず、不安で、私は一人ぼっちだと感じました。さらに、参加者同士がすでにお互いのことをよく知っているように見えたので、より不安になりました。しかし、他にも参加者が集まってみんなとの会話が弾んでいくうち、私の気持ちも落ち着いていきました。ウチナージュニアスタディー2018に参加する素晴らしい機会を得られたことは、本当に幸せで感謝しています。この1週間で私は、沖縄について学び、ウチナンチュとして成長できました。また、新しく出会った家族と、忘れられないたくさんの思い出を築くことができました。最も印象に残っているのは、美ら海水族館に行ったこと、つつじエコパークで過ごした2日間、平和学習、そしてエイサー練習です。

美ら海水族館はジンベイザメや人気観光地として有名ですが、今回は水槽の裏側を見て回ると言われたときすごくワクワクしました。魚をどのように飼育しているのか聞きながらジンベイザメの水槽を上から覗くことができ、とても楽しかったです。また水族館内を自分のペースで自由に見て回ることもできました。集合場所で置いてきぼりになったけど、でもとても楽しい時間でした。

エコパークで過ごした時間もとても楽しかった思い出の1つです。女の子みんなで1つの部屋に泊まったことでより絆を深めることができました。つつじエコパーク滞在中でも川トレッキングが一番楽しかったです。全身びしょ濡れコースを選んで良かったです。死ぬほど蜘蛛が怖かったけど、キャンプファイヤーや川トレッキング中にさまざまな虫に囲まれたことでだんだん慣れていきました。ゲームやキャンプファイヤーもみんなで楽しむことができました。卒業生ボランティア、特にショーンはおもしろかったです。

平和学習は、私だけじゃなくみんなにとっても感慨深いものでした。沖縄戦についてほんの少しは知ってはいたけど、より詳しく学んでみると衝撃的でした。アメリカでは、戦争に沖縄が巻き込まれた悲劇について教えられたことはありませんでした。沖縄県平和祈念資料館（平和の礎）やひめゆり平和祈念資料館（ひめゆりの塔）でも、貴重な知識をたくさん学びました。平和の大切さに気づいたし、戦争と暴力が引き起こす結果を目の当たりにしました。沖縄の歴史についてもっと学びたいと思いました。そして、学んだ知識を人々にも伝え、世界中に平和を広めていきたいです。

最後にエイサー練習は本当に楽しかったです！みんなと踊っている間、家族としての絆が深まりました。この事業に参加できなければ、こんなにも楽しくて素晴らしい経験はできなかったと思います。

この一生で一度の経験は、沖縄の文化や歴史、それらが私の人生の中でとても重要であることを教えてくれました。私の中に沖縄の血が流れていることを誇りに思います。沖縄との絆を感じることができたし、こうやって沖縄とつながっていることが幸せだと思いました。本当に、一生忘れない家族と過ごした、心に残る1週間でした。

*このツアーを成功に導いてくれたスタッフに感謝します。いつも私たちのことを気にかけてくれて支えてくれてありがとうございました。皆さんの貢献のおかげでツアーに参加する機会を得ることができたし、私の人生の中で一生の大切な思い出ができました。ありがとうございます。



太田 トーマス(16)

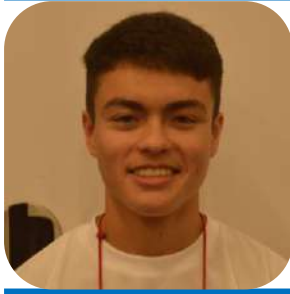
Tomas Gonzalo Ota

カナダ

レスブリッジ沖縄文化協会

「ウチナージュニアスタディーツアー」というタイトルだけでは、このツアーで経験した全てを語りきることはできません。私たちはものすごい量の沖縄やその文化について知識を得ました。たったの一瞬もつまらないと感じることはありませんでした。何より重要だったのは、このツアーで出会った友達です。彼らがいたから、何をしても心から楽しむことができました。この友達のことは一生忘れません。特に、トモキのひどいダンスや運の悪さ、ジョーのばかげた英語表現、ヒューのさよならパーティーのパフォーマンスを忘れません。誕生日にカイトが流した嬉し涙や、じゅのの笑いのツボの低さ、ライキさんの口癖の数々も忘れません。いま挙げたのはほんの一部であって他にも思い出はあるけど、ここに書くのは省きます。もちろん、このようなツアーはスタッフの支えなしには成り立ちません。ライキさんや太田さん、マツコールさん、スペイン語やポルトガル語、英語の通訳さん、キマさん、県庁のみなさん、他にも名前を忘れちゃったけど（ごめんなさい）みなさんに感謝します。もう彼らに会えないと思うと、とても悲しくて言葉がありません。この1週間で大家族の一員になれました。みんなも同じよう思っていると確信をもって言えます。（他にどんなことが私たちを涙でいっぱいにする？）ドクター・スースは「おしまいだからって泣かないで、それが経験できたことに笑顔になろうよ」と言いました。確かに一理ありますが、でも私たちみんなが泣いてしまったのは、もうこれ以上一緒に思い出を築くことができないからだと思います。私は貴重なライフスキルや教訓を教えてくれた思い出を、一生大切にします。参加自体を恐れていたこの事業こそが、私を一番変えてくれました。みんなが私の世界を広げてくれました。エイサー練習やダンスは私を表現豊かな人間にしてくれました。これまでは、人前で話したり自分を表現したりすることがとても苦手でしたが、このツアーで自信ができました。ありがとうございます。特に、沖縄の文化を学んだことで私の持つ沖縄のバックグラウンドがより好きになりました。私は今、カナダの友達や知人に、私の大好きな想いを伝えたいです。彼らはきっと沖縄の文化そのものは理解できると思いますが、このツアーでの経験までは理解できないと思います。私たちは4つの言語を話す集団だったけど、コミュニケーションを取り友達になることができました。簡単にはマネできないことだし上手く言葉で説明できないけど、たった一週間の限られたコミュニケーションでも私たちはこんなにも仲良くなることができました。

この作文を書いている間、将来、沖縄に帰ってくる計画を立てずにはいられませんでしたが、このツアーでの経験がそう思わせてくれました。（願わくは近いうちに！）また、日本語を勉強したい、もっとマジックをみんなに見せたいという気持ちにさせてくれました！地球上のいたるところに友達がいる、みんなもいつか再会することも待ち望んでいると思うと安心します。8月8日に海外参加者はみんな帰国しますが、私たちの中に涙を流さない人はいないでしょう。しかし、みんな笑顔で胸を張って、一生の大切な思い出と共に帰国したいと思います。



マクドウェル 丈(17)

Joe McDowell

イギリス

英国沖縄県人会

始めに言った通り、沖縄に来たくなかった。でも言った通り、その意見は簡単に変えられた。この十一年ぶりの沖縄、大人の考えかたを持ってこれたので自分のアイデンティティを見つけられました。

見つけた理由は簡単にわかっている。このウチナージュニアスタディーツアーは沖縄の大切な歴史、自然、移民と平和の勉強を全部この一週間にまとめられるので、何がウチナーンチュの作りになるのかを分かりやすくできています。

自分は十八才になってやっと自分のことを日本人に見える。やっと自分はウチナーンチュだと思える。

周りの英語を使ってる人との話だけではなく、みんなで日本語を支えて日本語を思い出してきた。その上、通訳を毎日してまたものすごくいい勉強になりました。

二週間前、僕に感想を日本語で書いてくださいといわれたら絶対絶対英語で書きました。これはこのウチナージュニアスタディーが生きてる理由ですね。

毎年沖縄に来てボランティアしたいと思います。毎年参加者が私のような感動できるように働きたい。

ウチナージュニアスタディー2018ありがとう。



川平 朝喜(15)

Tomoki Ellis Kawahira

オーストラリア

シドニー沖縄県人会

はじめは、学校を休んだり、サッカーの試合や練習を逃したり、オーストラリアの家族と離れてまでこのウチナージュニアスタディーツアーに参加するのは少し嫌でした。でもこのツアーに参加することを決断して本当に良かったです。このツアーは、沖縄について学ぶだけでなく、一生の友達との出会い、また日本語を上達させるきっかけを与えてくれました。

学校やサッカーなどの事情に加え、私はこのツアーに対して、良い人たちと出会えるかどうか、また他の参加者と上手くやっていけるかどうか、という不安な思いを抱いていました。驚いたことに、たくさんの人がフレンドリーに話しかけてくれたので、みんなの側でリラックスしながらすぐに友達を作ることができました。参加者だけでなくスタッフの方々も歓迎してくれ、緊張はすぐにほぐれました。このおかげで、自国紹介では自信をもって発表することができました。初日で一番興味深かったのは、私たち参加者の間にある多様な国籍、文化、言語の違いでした。

それぞれいろいろな思いを抱きながら、残りの日々はあっという間に過ぎていきました。私たちが体験した全てが感動的で興味をそそる楽しい内容でしたが、私にとってこのツアーで最も印象に残っていることは、美ら海水族館と川トレッキング、ひめゆり平和祈念資料館（ひめゆりの塔）です。美ら海水族館では、初めてジンベイザメの水槽を上から覗きました。水族館の裏側を見学したことで、職員がどのように生き物を育て、繁殖させ、世話をしているのか、その方法を学ぶことができました。川トレッキングでは、今まで見たことのない多様な動植物など沖縄の自然を満喫することができました。ひめゆり平和祈念資料館（ひめゆりの塔）では、戦争を実際に体験した人の視点で話を聞く貴重な機会があり、忘れられない経験となりました。お話はすぐく心に響いたし、周りのみんなも感動していました。

まとめとして、このツアーへの参加は、短期間で私を間違いなく変えました。自然や文化、移民・移住学習、平和学習を通して私の沖縄の知識はさらに深まりました。また世界中に友達もできました。一緒に過ごした思い出は、私の心の中に一生残るでしょう。



安慶名 ノエミ(16)

Noemi Aguenta

ブラジル連邦共和国

ブラジル沖縄県人会

7月23日から夢だったものが叶い始めた。このプログラムを通していろんな人と出会えました。初めて親戚にも会えました。沖縄で過ごした間はお仏壇について習ったり、自分のお先祖の写真などみれました。29日にはプログラムが始まって、最初は緊張をして、初対面の人達や日本が喋れない為とても不安でした。でもこのプログラムを通して、言葉が通じなくてもお互い通じ合える事と、人それぞれの違いや、国よっての文化の違いがあっても、違いを受け入れる事が大切だと思いました。沖縄の文化や歴史についていっぱい習いました。特に博物館などへ行って写真や資料を見て戦争の生々しい写真が印象的でした。戦争の依存者に話が聞けた機械があつてとても良かった。話を聞いて、戦争がどれだけ恐ろしいのか、戦争にいた人達の辛さや悲しみが伝わりました。でも一番心に残ったのが、依存者がいくら辛い事があっても、悲しくても自分の命と他人の命を大切にしようという言葉です。いろんな事を習ったけど、楽しいこともいっぱいありました。新しい友達と過ごしたキャンプファイヤーや、一日が終わった後の皆んなとお話しをして過ごした時間がとても楽しかったです。また、皆んなと会える事を願います。このプログラムで作った友達とはこれからも連絡をとって行きたいです。スタッフ達もみんな本当に感謝してます、スタッフがいたからこそ、最初不安だった事も忘れて楽しむ事が出来ました。特に通訳してくれたマユミさん、トシオさん、エイサーを教えてくれたシュンカさんとは、予想以上に仲良くなってとても良かったです。感謝してます。毎日のエイサー練習も厳しかったけど、踊ってる時はリラックスできて、何よりみんなと楽しく踊れたのがうれしかったです。最後に、この経験を終えて違う考えを持ってブラジルへ帰ります。そして、沖縄での経験を周りの人達に伝えたいです。



城間 イザベラ(15)

Isabela Shiroma

ブラジル連邦共和国

カンポグランデ沖縄県人会

沖縄で過ごした日々は今迄楽しかった日々でした。このプログラムに参加するのを選んでくれて光栄です。私のひおばちゃんやんが県人会の事をいろいろ話してくれたり、教えてくれた事を思い出しました。そして私がこのプログラムに参加出来た事を誇りに思ってくれてると思う。おばちゃんが亡くなってからは県人会に参加するのをやめた時もあったけど、せっかくある県人会に参加しないとのはもったいないと思いついてまた参加するようになったおかげで、沖縄へ来る事が出来ました。

沖縄で過ごした日々は自分の考えが結構変わりました。沖縄へくる一カ月前くらい、学校でのプレッシャーで精神的に辛かったけど、戦争の話しを聞いたり、写真など見た後は自分が精神的に辛かった事は戦争経験者達の気持ちに比べたら全然違うなと思いました。

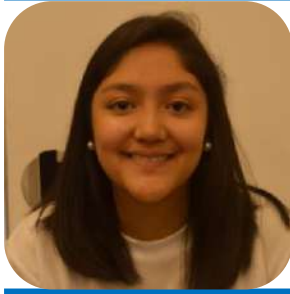
沖縄での経験はこれから生きていく中でいい勉強になりました。このプログラムを通して作った友達、お世話になった人達、親切にしてくれたみんなに感謝してます。

このプログラムに参加出来たのは、支えた家族、友達、スタッフ、通訳してくれた人達、食べる時もアレルギーがあるから心配してくれて、面倒見てくれたみんなに感謝してます。

イッペーニフェデービール

muito obrigada (ムイト オブリガダ)

ありがとうございました。



パステリン 古波蔵 エリカ イザベル(15)

Erika Isabel Pastelin Kohagura

メキシコ合衆国

メキシコ沖縄県人会

最後の2週間は私の経験の中で最高のものとなりました。
沖縄の家族と一緒に過ごしたり、たくさんの人々と出会い、またこの1週間で素晴らしい友達とも出会いました。
沖縄についてのたくさんのことを学び、そして今は、私がどこから来たのか、その歴史、文化、食などについて知ることが出来ました。
沖縄に来る前はその歴史については、ほとんど知りませんでした。
戦争中に、ここに住んでいた人々が苦しみ、そして、私たちの家族がメキシコで苦勞し息子たちに良い生活ができるように一生懸命仕事をして、私たちの世代に繋がっていることを知りました。
おそらく、一番印象的だった場所はひめゆり資料館で、生存者から戦争中の体験を聞くことができ、戦争は破壊や苦しみ、痛みだけを残すと気づきました。私は彼女の経験を聞いてとても悲しくなりました。
とても驚いたことは苦勞したにも関わらず、生きていることに感謝しているということ。
何よりも命が大切だということを彼女から学びました。
演劇はとても素晴らしく、移民の歴史と外国に行き受けた差別を学ぶことが出来ました。
劇中の音楽もとても良かったです。
水族館も良かったです。一度も見たことがない場所も特別に見ることが出来ました。魚達を観察することも興味深かったですし、魚について学ぶことが出来ました。
2日間はエコパークに行き、もう少し居たいと思いました。
トレッキングは虫がとても怖かったですが、とても楽しみました。
首里はまた行きたいと思える場所でした。
歴史と中国からの影響について学び、そしてまた、空手会館で空手の演舞などを見ました。
時間があまりなかったため、たくさんの事をしたり、その他の場所には行けませんでした。
たくさんの体験の中で好きだったのはエイサーの練習でした。
皆で助け合い最後は踊れるようになって、皆で毎日練習をし準備をしていきました。
この機会を与えて下さりとても感謝をしています。たくさんの人々に出会い、たくさんの場所を訪れることが出来ました。
すべての出来事や友達を愛おしく思っています。
私が学んだ事をメキシコの友達、家族、知人と共有することが出来る事を嬉しく思っています。
そして、いつの日か他の国々を訪れ、私のアイデンティティはウチナンチュだということ
伝えることが出来ればと思っています。



眞榮城 海人(19)

Kaito Maeshiro

ボリビア多民族国

ボリビア沖縄県人会

私はカイト マエシロです。私は日系のウチナンチュです。家族と一緒にボリビアに住んでいます。

2018年のウチナージュニアスタディに参加しました。

私の祖父や祖母の生まれた場所に来れることはとても嬉しく思いましたが、他の国々の人たちと上手くいくか心配でもありました。

沖縄に着いた時、私の母の親戚（ホームステイ先）は両手を広げ心より歓迎してくれました。

そこで沖縄での家族を感じる事ができ、私の不安はなくなりました。

ジュニアスタディ初日はホテルチュラ琉球に集まり、そこで初めて他の参加者と会いました。

皆、緊張して、誰も話そうとしませんでした。

1人ずつ紹介が終わった後で移民学習と私たちのアイデンティティについての授業がありました。

自分の国について色々なことを感じました。

時間が経過し少しずつ信頼関係が生まれ、緊張感もなくなり、

その国の言葉を知らなくても、すべての知っている言葉を使い話すようになりました。

色々な方法を使い、サインを探し、ある人はその言語を知っていて

コミュニケーションをはかりました。

3日目の夜はジュニアスタディのOBやOG達と共にバーベキューをしました。

その日は私の誕生日でここでは誰も私の誕生日を知らないのでお祝いが出来ないと思いましたが、その時誕生日の歌が聞こえてきて、私は涙を流しました。

本当に感謝しています。私の人生で一番の素敵なサプライズでした。

平和学習はたくさんのお話を心に刻みました。

戦争からの生存者のお話を聞き、彼女はたくさんのお友達を亡くした戦争はしてはいけないと私たちの心の底に語り掛け、命が一番大切だという言葉が胸に突き刺さりました。

本から学ぶ事とは違うと感じ、引き続き平和について新しい世代が戦争の残酷さを学び続ける必要性を感じました。

最終日の1日前は再度アイデンティティの授業がありました。

ほとんどが外国人と日本人の真ん中を選びました。

この数日で皆のアイデンティティに関する気持ちの変化がありました。

ジュニアスタディのおかげでたくさん気づくことができました。

ついに最終日です。

終了式は言葉を発するごとに皆泣いてしまいました。

その後、ウチナージュニアスタディに参加した中で一番、皆で心を一つにしてエイサーを踊りました。

この経験は忘れないでしょう。

数日前に出会った友達は家族同様になりました。

私はまた愛する沖縄に戻ってくると約束します。

ありがとうございました。



諸喜田 ミカエラ 美由紀(18)

Michaela Miyuki Shokita

アルゼンチン共和国

在亜沖縄連合会

ウチナージュニアスタディは私の期待を大きく上回るものでした。今まで家族と離れ一週間を過ごすことなど想像もしませんでした。私が過ごした最後の週間はいつも思い出します。この交流で私は、沖縄の文化を持つ私の祖父母がどこから来たのか知る機会を得ることが出来ました。彼らの習慣で私を育ててくれて感謝をしています。私は前よりもっとウチナンチュだと感じています。私が学んだ事はすべてアルゼンチンのウチナンチュだけでなく世界各地で沖縄をつなぐ架け橋になれたらと思っています。ジュニアスタディの週の最後に近づいた時、私たちが全く見知らぬ人であった最初の日を思い出していました。私たちは皆、氷を壊すことは恥ずかしく思っていました。そして、話始め、時間がたつと強い友情の絆が芽生え、言葉の壁を越えました。国や文化、または宗教に関係なく、私たちは同じ目的のために団結しました。もっと、うちなーと私たちの先祖に近づきたいと思うと同時に、この島が持つ価値を学んでいきたいと思っています。文章が短いことは承知ですが。素晴らしい友人たちと貴重な1週間を過ごした後に表現する言葉が見つかりません。最後に本当にありがとうございました。私の最高の素晴らしい思い出になりました。いつか将来、私たちの道が交差することを期待しています。こういう言葉があります。「さよならではなく、また会いましょう」
いっぺーにふえーでーびる



崎原 上江洲 ジャンポール(15)

Jean Paul Sakihara Uezu

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

11年前に初めて国を出ました。その場所は知らない場所で期待や目標もありませんでした。

メキシコから日本への旅の途中で私の人生で転機になる人物と出会いました。

彼は私に気づき、君も沖縄に行くのかと私に尋ねました。

到着した時はすべてが違っていました。通りは静かで騒音もなく、安心して街中を歩くことができ、街頭で買ったものを盗まれる心配もなかった。

すべてが落ち着いていて平和だった。私の国とは全く違う場所だった。

プログラムが始まると私は何をすべきか、どのようにしたら良いのかわからなかった。また言葉の壁も感じた。

しかし数日たつと すべてのことが変わり始め、言葉や年齢の違いも人種も全く問題のないことだと感じた。

最初は3人の人と、そしてそのあとは皆家族だと感じるようになった。

何人かとは早いうちに、他の人とはほとんど最後のプログラムで親くなりました。

方言のイチャリバチョーデーのように、この短い期間に知り合い、まるで最初からの友と思えるほどになりました。

会話を交わすごとに理解が深まり、楽しく、笑いが起こり、その笑顔は私の心に残っています。悲しい日もあり、力がみなぎる日もあり、楽しい日もあった。

私たちは戦争について学び、あの時代の残酷さを理解し、平和を望んでいかないと続いていかに気が付きました。私たちは、私たちの祖父母たちが私たちのために、たくさんのことをしてきたことを知らない。その時代を生きていなかったし、酷い食事もしたことがない。爆弾の音を我慢したこともない恐ろしいストレスや死の恐怖に侵されることもない。

彼らのすさまじい人生を生きることができない。だから彼らが未来のために何をしたのかを知り続けたいといけなと思っています。

そして、この平和な時代に私たち家族が笑って過ごしている事を彼らは喜んでくれていと確信しています。

時は過ぎ、すべてが終わり、悲しみを避けることが出来なかった。

すべてが非常に早く動いていることを感じていました。

部屋での会話、抱擁、写真、ゲーム、私達だけが理解できる事、たくさんのことに幸せを感じました。一緒にたくさんの経験をしました。

毎日彼らの顔を見るのが習慣になり、可能な限り楽しみました。

そして、目を覚ましてから考え始めるようになりました。

”彼女とはあまり話していない””彼とはとても良い時間を過ごした”

”すべての時間がとても幸せだった”... ”でも、... もう6日目だ”

涙は出たけれど、泣きたくなかったなぜなら、とても幸せだったから。

もう言葉は見つからないけれど、最後のエイサーの練習を覚えている、

皆で掛け声をかけ、とても素晴らしかった。とても深い友情が結ばれた。

色々考えると気が重くなりました。これが最後の練習。最後の日は泣かないようにしたが、皆が大好きだったので、私にはそれは不可能だった。

たくさんのことを体験し、多くの障害を克服し、一緒に過ごし楽しんだ。

この時間が終わってほしくないと思った。そうしないといけなことも分かっていた。

同じ場所で過ごした時間は戻らない。このプログラムはここで終わり、次の物語が始まります。私にとって、ここはすべてが始まった場所です。

スタッフの方々、参加者の皆さん、ありがとうございました。

あなた方への気持ちは参加者の心の中にあります。



石坂 伊禮門 ニコール 順(22)

Nicole Juun Ishisaka Yreijo

ペルー共和国

ペルー沖縄県人会

まず一番に言いたいことは、2018ウチナージュニアスタディのプログラムの経験は本当に素晴らしいものでした。

とても素晴らしい人々に会う機会に恵まれました。

スタッフそしてボランティアの方々の協力とまた、私に大切な役割を与えてくれました。

プログラムの印象としては沖縄の歴史、戦争、そして平和の重要性について教えてくれたと思います。

この1週間、これらの問題に関して、戦争は常に不幸なことであるということを世界に、そして若い世代に広げる必要性について、多くのことが議論されました。

また自然問題やコミュニティなども話題になりました。

プログラムは色々な場所を訪れ、違う視点で考えることができたし、沖縄の美しさも感じる事が出来、私のルーツである沖縄をととても誇りに思いました。

また、より多くのことを学び成長しました。沖縄の芸術も世界に紹介したいと思っています。

第2にこの1週間、各国の子供たちと一緒に過ごしたので、それぞれの文化を知ることが

出来ました。また、私たちの文化も分かち合うこともできました。

それに加え、国を超え、誰とでもコミュニケーションをとることができ、

素晴らしいことだと思いました。

最後に私の場合は、リーダーとしての役割があり、この経験はとても素晴らしいものでした。

なぜなら、少し疲れた状態でも、最後まで責任を全うするということを体験できました。

リーダーとして、困難なことがあってもしっかりしないといけないことがありました。

この経験から私はたくさんのことを学びました。とても感謝をしています。

2018年7月31日 27面・はと笛 掲載「琉球新報社提供」



○…沖縄にルーツを持つ海外移住者の子どもたちと県内学生らが交流を深める2018年度「ウチナージュニアスタディー事業」の

歓迎セレモニーが30日、海外参加者16人、県内参加者17人が出席し、県庁で開かれた。○…ポリビア在住の眞築城海人さん(19)

は「沖縄の歴史を知り、次世代へウチナー魂を継承したい」とあいさつ。向陽高3年の服部進之介さん(17)は「交流を楽しみながらネットワークを広げていきたい」と述べた。○…一行は7日間の日程で県内各地を訪れ、沖縄の歴史や文化、自然に理解を深める。

2018年9月1日 こども新聞 掲載「琉球新報社提供」



講演の合間にディアマンテスの歌を熱唱するアルベルト城間さん＝那覇市のホテルチュラ琉球



講演後、記念撮影するアルベルト城間さんと若者ら

沖縄だから、かなった夢

海外移住子弟に講演

県系3世・ボーカル アルベルト城間さん

【西原町立西原南小6年・山内茉莉奈 南米ベル生まれの県系3世で沖縄を拠点に活動する「ディアマンテス」のボーカル、アルベルト城間さんが8月3日、那覇市のホテルで講演した。海外移住者の子弟を沖縄に招待し、県内の中高生と交流しながら沖縄の歴史や文化、自然などを学ぶ県の「ウチナージュニアスタディー事業」の環、城間さんは、歌手として成功するまでの道のりや沖縄への思いを語り、若者らは熱心に聞き入った。

「誰でもウエルカム」

城間さんは沖縄出身の日本の歌謡曲を聞き、日本にベル音楽の演奏を乞われ、弾くと褒められた。その時、初めて祖母のレコードの、「のど自慢大会で優勝がラテンと沖縄の音楽が

融合した曲作りとディアマンテス結成につながったと振り返り、「自分の持っているものをちゃんと喜んでくれる沖縄の人の気持ちでうれしかった」と語った。講演の中で、城間さんは自分を受け入れてくれた沖縄への愛を歌った曲「沖縄ミリアル」や、日本で働く海外移住者の子弟の苦勞を代弁した曲「カンパニヤンド」などを歌い、若者にエールを送った。参加した若者から「沖縄を一言で表すと？」という質問に「誰でもウエルカムで興味を持って拾って拾ってくれる気持ちがある。世界の平和のヒントがある。平和のキーストントだと感じ」と答えた。若者らは最後に全員でディアマンテスの「片手に三線を」を歌い、各国の言葉で感謝の思いを伝えた。県内から参加した沖縄尚学高校の新城未亜さん(16)は「城間さんは自分の得意なことまで沖縄のことを見つけて、彼のように沖縄のことを発信していきたい」と話した。ベルのリマから参加した崎原ジャンポールさん(15)は「一曲を聞いて感動した。本人から直接、話を聞けたことはとても貴重だった」と感動した様子だった。

2018年12月30日 9面 掲載「琉球新報社提供」

荒本 樹乃：「グローバル」の視点持つ

「グローバル」の視点持つ

前原高3年 荒本 樹乃

現代社会では「グローバル化」が急速に進んでいる。産業や文化が国境を超えてとても便利で豊かな時代になったと感じる。

しかし、グローバル化が進む中で、人々は外の世界にばかりに目を向けていて、自分の地域の魅力を分かっていない人も少なくない。

私も今までは、英語や外国の文化を学んだことで、グローバルな視点があれば社会に

貢献できると思っていた。しかし、沖縄で行われた県主催の国際交流事業に参加した際に、私は沖縄の文化や歴史、自然についてあまり知識がないことを痛感した。

この経験から私は、社会に貢献するためには、グローバルな視点だけではなく、地域のことも考える「グローバル」の視点が必要であることを学んだ。私たち一人一人がグローバルの視点を持つことで、地域はグローバル社会に対応しながら、地域の特性を生かした独自の発展を遂げることができる。私は考える。

2018年7月23日 23面 掲載「沖縄タイムス社提供」

マックミリアン 夢彩：ユアさん「勉強したい」 UJS参加決定 沖縄研修に意欲



ユアさん「勉強したい」
UJS参加決定 沖縄研修に意欲

フロリダ

【クリッシィ悦子通信員】
県系人子弟を沖縄に招待し沖
縄を学んでもらおうと県が主
催する「ウチナーシユニアス
タデー（UJS）」にフロ
リダ沖縄県人会（ひでこ・マ
ーシー・ボールドウィン会

ジュニアスタディーのメ
ンバーに選ばれたユア・
マックミリアンさん（前
列右から3人目）と母親
のゆりさん（同4人目）

長のユア・マックミリアン
さん（16）が選ばれた。同県人
会は8日、会員宅で激励会を
開いた。
ユアさんは県人会会員の尚

子マックミリアンさん（36）の
娘で沖縄生まれ。尚さんが
シヨーンさんと再婚したの
に伴い、2011年に渡米
した。UJSについて会員か
ら聞き、応募。選出された
とを米国や沖縄の家族・親戚
一同が喜んでいっている。
ユアさんは「沖縄は私の故
郷なのに友達から沖縄のこと
を尋ねられても知らないこ
とが多い。もっと沖縄につい
て勉強したいと思っていた。
歴史や文化、日々の暮らし、

食べ物など学びたいことがい
っぱいある。いとこや祖母
ら親戚も、私に来るのを楽し
みにしている」と言を強ませ
た。
尚さんは「米国では
教科で第2次大戦について勉
強するもつたが、沖縄戦につ
いてはほとんど触れられてい
ない。沖縄側の視点で学んで
きてほしい」と期待を寄せた。
ユアさんは高校2年
生で学業以外にもさまざまな
活動に参加している。

ボールドウィン会長は「海
外に住む私たちウチナーンチ
ユの子弟に沖縄を知ってもら
うこのようなプログラムを、
沖縄県が実施していることを
ありがたく思う。ユアさん
は豊かな沖縄の文化を学ぶど
ともにとりんと楽しんできてほ
しい」と激励した。
県人会からユアさんに祝い
金が贈られた。UJSは7月
29日から8月7日までの日
程。

2018年7月31日 25面 掲載「沖縄タイムス社提供」
小西 ローネン明・上原 涼：海外の県系子弟16人歓迎



会話を楽しむ県系子弟と県内の若者＝29日、那覇市松尾

海外の県系子弟 16人歓迎

ウチナージュニアスタディー

県事業のウチナージュニアスタディーに参加する海外移住者の子弟16人が29日、来沖した。那覇市内のホテルで歓迎会が開かれ、海外・県内参加者ら合わせて約50人が参加した。8月4日までの日程で、沖縄の歴史や文化、自然などを学ぶ。

同事業は第3回世界のウチナーンチュ大会をきっかけに2001年度から始まった。世界各地の参加者はホームステイしながら、エイサー講習や移民演劇鑑賞などさまざまなプ

ログラムを体験する。

米国から参加した県系3世の小西ローネンさん(18)は「世界中から集まった人との交流が楽しみ。特に沖縄の文化がペルーでの生活にどう影響しているか知りたい」と笑顔。那覇国際高3年の上原涼さん(18)は「みんなの祖父母らに移住したきっかけに興味がある」と話した。

30日は名護市の万国津梁館を訪れたほか、エメラルドビーチで自然学習に取り組んだ。

2018年10月8日 12面 掲載「沖縄タイムス社提供」
 小西 ローネン 明：ルーツ同じ連帯感
 カニングハム 陽優 ウィリアム：架け橋に思い強く

ルーツ同じ 連帯感

ローネンさん 友人増え喜び



歓迎パーティーで笑顔の小西ローネン明さん（左端）

ジュニア事業 10代沖縄満喫

米ロサンゼルス

【森田のりえ通信員】沖縄県主催のウチナージュニアスタディーに参加した小西ローネン明さん(18)がこのほど、2週間の研修を終えてロサンゼルスに帰ってきて、多くの友達ができたと喜びを語った。ローネンさんは沖縄系5世。1週間は研修に参加した

若者33人と行動し、1週間は親戚宅に滞在した。8カ国から集まった15人と沖縄在住の18人は寝起きを共にし、交流を深めた。初めて沖縄を訪れたローネンさんは、糸満市のひめゆりの塔や平和祈念公園を見学し、語り部の話を聞いた。これまで米国側から見ただけの戦争しか教えられなかったことに

懸け橋に思い強く

ヒュウさん 祖父宅で絆実感

米アトランタ

【ルイス高江洲佳代子通信員】アトランタ沖縄県人会(金城由美子会長)はこのほど、ウチナージュニアスタディー事業で沖縄を訪れたヒュウ・カニングハムさん(16)を迎え、体験報告を聞いた。ヒュウさんは、5年間学んだスペイン語で南米の参加者

気付いたとし、「悲惨な戦争体験を知り、驚くと同時に悲しかった。けれども、知ることほとても大切。沖縄の文化や歴史、日本語をもっと勉強したい」と振り返る。エコパークでのトレッキング、空手の大会出場、さまざまなパーティーのエイサー、離島のフライボートの初体験など、楽しい思い出ができた。参加者はバックグラ

ウンドが違うにもかかわらず、沖縄にルーツがあることで不思議な連帯感が生まれ、ツアー後も連絡を取り合っているという。帰国してすぐ、三線を習い始めたローネンさん。9月から大学で学んでおり「コンピューター・サイエンスを勉強し、将来はロボット製作の仕事に携わりたい。沖縄に行きたい」と抱負を語った。

にエメラルドの海、赤瓦から静かに見守るシーサー。アーケードの下のエプロン姿のおばあたちの日焼けした顔には笑みがいっぱい。アトランタではできない体験で、出会うみんなが自分の未来にエールを送っているように思えた」と幸せそうに話した。エイサーを習う時間ももあり、指導者のダイナミックなばちさばきに魅了された。三線などの伝統芸能に今後とも力を入れたいという。

また、北中城村の祖父・新垣孝明さん宅で4日間ホームステイ。危機一髪で日本兵から逃れた祖父の戦争体験を聞き、今の島からは想像できない過去を知った。祖母の家庭料理、初対面のいとこや親戚に囲まれて絆を強めた。

「今後も沖縄と米国の懸け橋になりたい」と目を輝かせるヒュウさん。県人会の理事でもあるヒュウさんの母、新垣さずえさんは「イチヤリパチヨーデーで沖縄で多くの出会いがあり、2週間のグループ学習で自信につながったと感じる」と息子の成長をうれしそうに語った。

ワールド
 ネット



那覇市内

事業の最終日にエイサーを披露し、メンバーと記念撮影するヒュウ・カニングハムさん(右)



事業の写真や動画を使用して、ウチナージュニアスタディ2018のダイジェスト版を作成。ダイジェスト版をYouTubeにアップすることで、参加者の保護者や関係者・また事業について知らない方にも、こういった事業なのかを知ることができる。

YouTubeチャンネル
「那覇市ぶんかテンプス館」





facebook

facebookを利用し、事業実施前から参加者とコンタクトを取ることができた。また事前学習や事業プログラムなどの写真が投稿され、参加者全員で共有することができた。事業プログラム終了後も、参加者にさまざまな情報を発信するツールとなっている。現在では、参加者・スタッフ・ボランティア(過去参加者)を含め47名のグループメンバーとなっている。これからも随時、本事業関係の情報が投稿されていく。

LINE

LINEでもグループを立ち上げ、県内参加者と海外参加者が連絡取れるツールとして使用されている。県人会での活動や学校での活動・誕生日を祝うメッセージなどが投稿されている。

ロゴマーク

●制作意図

既存のロゴマークをベースにデザインをさらにブラッシュアップさせ、見やすく、より鮮やかにロゴをマイナーチェンジした。

「Uchina Junior Study」を通じて海外移住者子弟の青少年と県内の中高生が沖縄への理解を深める。協調性、躍動感、ネットワークと魂(マブイ)、楽しさをイメージし、ロゴタイプを効果的+印象良く、楽しくレイアウトにした。また、世界のウチナーネットワークの継承を大きなテーマの一つととらえ、未来へ紡いでいく尊敬と信頼を築くイメージでグラフィカルに表現した。

●カラーリング構成

ブルーで友好のチムグクルを
グリーンで協調性を
レッドでウチナーンチュの情熱を
イエローであくなき探究心を
スカイブルーで沖縄の美しい自然を
それぞれ表現した。



●ロゴマーク(ボックスタイプ)

毎年、マイナーチェンジをしているロゴ。
今年度は、花笠の絵に「2018」を入れて、
沖縄っぽさを強く表現した。
参加者・ボランティアから「デザインがかわいい」
と高く評価を受けた。



ロゴマーク(横タイプ)

ウェルカムボード、ネームフォルダに使用。



Tシャツデザイン

ウチナージュニアスタディーオリジナルTシャツを参加者・県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダーの全員に配布し、県庁表敬・さよならパーティーの際に着用。全体の一体感を醸成し、規律ある団体行動を促した。

また、8月7日のアフタープログラムで寄せ書きをみんなで書き合うことにより思い出の品として持ち帰った。

配布するTシャツは、参加者用(白)と県職員・運営スタッフ・ボランティア・青年リーダー用(黒)の2種類作成。



●横断幕

サイズ250cm×45cm

事業名の『2018ウチナージュニアスタディー』

表敬訪問や首里城・美ら海水族館などの見学施設での全体写真撮影に使用。



●ウェルカムボード

空港で海外参加者のお迎えの際に使用。

■沖縄方言

■日本語

■英語

■スペイン語

■ポルトガル語

沖縄方言と4カ国で「ようこそ!」という意味。



●ネームフォルダ

名前(ローマ字含む)・出身国・年齢・血液型・性別・緊急連絡先を記載

- 白：日本語圏
(県内参加者)
- 赤：英語圏
(アメリカ合衆国・カナダ・イギリス・オーストラリア)
- 青：スペイン語圏
(メキシコ合衆国・ボリビア多民族国・ペルー共和国・アルゼンチン共和国)
- 緑：ポルトガル語圏
(ブラジル連邦共和国)
- 黒：スタッフ・ボランティア

Uchina Junior Study Tour 2018			
名前			
Name			
出身国 Country	日本 JAPAN		
年齢 Age	血液型 Bloodtype	性別 Sex	
17	O	女 F	
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課			

Uchina Junior Study Tour 2018			
名前			
Name			
出身国 Country	アメリカ U.S.A		
年齢 Age	血液型 Bloodtype	性別 Sex	
14	O	女 F	
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課			

Uchina Junior Study Tour 2018			
名前			
Name			
出身国 Country	アルゼンチン ARGENTINE		
年齢 Age	血液型 Bloodtype	性別 Sex	
15	O	女 F	
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課			

Uchina Junior Study Tour 2018			
名前			
Name			
出身国 Country	ブラジル BRAZIL		
年齢 Age	血液型 Bloodtype	性別 Sex	
16	A+	女 F	
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課			

Uchina Junior Study Tour 2018	
STAFF	
名前	
NAME	
ポジション	ディレクター
Position	Director
緊急連絡先 Tel. 098-866-2479 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課	

●フェイスシール

最終日の修了式・さよならパーティー・パレットくもじ前でのエイサー演舞の際、県内参加者・県内青年リーダーは右頬には県旗のフェイスシール、左頬には日の丸のフェイスシールを貼り、海外参加者・海外青年リーダーは右頬には県旗のフェイスシール、左頬には自国のフェイスシールを貼り、「私たちは皆ウチナンチュ」と表現をした。



●沖縄空手国際大会

第1回沖縄空手国際大会の競技時間変更に伴い、参加者に試合観戦をしてもらうため、プログラム当日にスケジュール調整を行い、博物館見学からスタートする変更を行った。博物館では事前調整や下見ができておらず観覧に十分な時間がとれず、空手会館では、試合開始時間の把握ができていなかったため、試合観戦時間が十分に確保できなかった。

改善策：受注後、実施前に再度プログラムの時間・内容確認を行い、最終確認を行うことで、プログラムを円滑に進行する。

●平和の礎

プログラム開始前に、海外参加者宛「平和の礎刻銘者調査票」を県人会に送付し案内をかけたが、当日まで回収できなかったため、プログラム前日から当日にかけて直接参加者から情報収集をした。

改善策：県人会に案内をかける際に、必ず回答いただけるような資料作成をおこなう。また、「該当あり・なし」などの項目を追記し、未回答の場合は提出の催促をかける。

●レインコート

雨天時対策用のレインコートの種類にばらつきがあり、雨天時の移動時に衣服が濡れてしまう参加者がいるなど支障がでたため、移動途中で追加購入し対応した。ジャケットタイプとコートタイプを確認せずに購入したことで、参加者へ配布した際に差がでてしまった。

改善策：参加者には雨具の持参を呼びかけ、予備として傘を数本準備する。

●エイサー

エイサーの練習に熱が入り、食事時間短縮や練習時間を延長して実施する日があり、参加者全体に疲れが見えるなど、翌日のプログラムに影響がでていた。

改善策：しっかり決められた時間内で練習を行う。練習時間が足りないようであれば、プログラムを調整し、練習時間を確保するなど、参加者の体調管理に配慮する。また、プログラム実施前に参加者に披露予定のエイサーの動画を共有し、自主練習を促す。

●Facebookの活用

前年度の課題を踏まえ、今年度は、参加者への情報共有のためのFacebookアカウント登録を義務化し、事業周知等を実施した。実際に当アカウントでの反応を示した参加者が極端に少なく（特に県内参加者）、一部意識の高い参加者のみが活用していた。※最近の中高生はFacebookを使わない傾向がある。

改善策：今後は、LINE等他のSNSも活用し、事業関連情報の共有を行う。また、Facebookはオープンにし、誰でも閲覧可能な状態にすることで、事業実施中の様子などをアップし情報発信する。

(1) これまでの海外参加者・引率者・青年リーダー内訳 ★はウチナンチュ大会開催年

○国別内訳 () 内は、平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
ボリビア	4 (1)	2	2 (1)	2	2	4 (1)	2 (1)	1	1	1 (1)	3	1	2	3	2	3	2	1	38 (5)
ブラジル	8 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3	3	2	3	3	2	2	58 (12)
うちカンボグランド	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1	1	2	1	1	1	1		1	1 (1)	1	1	1	1	1	19 (3)
アルゼンチン	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3	2	2 (1)	2	2	3 (1)	1	3	2	2	2	2	1	39 (6)
ペルー	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1 (1)	2 (1)	2	3	1	2	1 (1)	2	3	1	1 (1)	36 (9)
ベネズエラ	1 (1)																		1 (1)
メキシコ	2 (1)					1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13 (1)
キューバ		1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)									7 (7)
フランス	1 (1)																		1 (1)
イギリス	1 (1)				1 (1)	2					1							1	5 (2)
ドイツ	1 (1)						1			1 (1)		1		1					5 (3)
アメリカ	17 (4)	6 (2)	6 (4)	5 (1)	5 (1)	10 (2)	5 (1)	4 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	2	2	3 (1)	4	4	6	104 (21)
うちハワイ		2	2 (1)	1		1		1	1			1							9 (1)
うちグアム	1		1 (1)																2 (1)
カナダ	4 (2)	1 (1)	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1		2	1 (1)	1	23 (4)
フィリピン	3 (1)	2 (1)	2 (1)	1	1	1	1										1		12 (3)
シンガポール		1 (1)																	1 (1)
マレーシア						1		1			1			1	1	1			6
韓国														1	1	1	1		4
ニューカレドニア								1	1	1	1		1						5
オーストラリア																		1	1
計	50 (17)	20 (9)	19 (9)	17 (5)	17 (5)	34 (6)	17 (4)	15 (4)	18 (4)	21 (5)	23 (3)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	20 (1)	15 (1)	15 (1)	360 (76)

○世代別内訳 ※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
1世				1	2	1		1			1		1		1				8
2世	26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	8	5	2	5	3	5	4	4	116
3世	21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	8	4	6	7	4	8	7	7	148
4世	3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	6	5	6	3	8	6	4	3	85
5世						1				1								1	3
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	360

○海外参加者の男女別内訳 ※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
男子	30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	10	6	6	6	7	7	3	7	149
女子	20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	13	8	9	9	8	13	12	8	211
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	360

(2) これまでの県内・県外参加者内訳 ★はウチナンチュ大会開催年

○学生別内訳 () 内は県外参加者 ※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
小学生	9																		9
中学生	24	13 (3)	7 (1)	5	4	11	4	4	5	6	7	2	3	5	4	4	2	3	113 (4)
高校生	17	11 (1)	18 (2)	15	15	22	13	11	13	15	17	12 (1)	12	11	12 (1)	18 (2)	14	13	259 (7)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	16	381 (11)

○県内・県外参加者の男女別内訳 () 内は県外参加者 ※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
男子	15	6	4 (1)	4	5	7	3	3	4	3	4	2	3	3	4	4	3	3	80 (1)
女子	35	18 (4)	21 (2)	16	14	26	14	12	14	18	20	12 (1)	12	13	12 (1)	18 (2)	13	13	301 (10)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	16	381 (11)

(3) これまでの参加者合計(海外、県内・県外)

○参加者合計

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	計
海外	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	360
県内・国内	50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	16	22	16	16	381
計	100	44	44	37	36	67	34	30	36	42	47	28	30	31	31	42	31	31	741